



春のダムサイト

金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報 vol. 40

第40号 目次

- 1 会長挨拶 22期 黒崎敏男
- 2 支部活動報告 東海支部 17期 渡邊和文 17期 小島 敬
近畿支部 11期 加藤忠好
- 3 2025年小屋作業 22期 黒崎敏男
- 4 現役より(2025年度活動報告) 68期 栗田 樹
- 5 会員からの投稿紹介
「登山とボランティア」 4期 佐藤秀紀
「夏の霧が峰&入笠山ゆっくり紀行」 8期 篠島益夫
「憧憬のウズベク 一大昔の NHK シルクロード の地、サマルカンド等へー」 11期 長岡正利
「金婚式は、外遊イヤー」 15期 舟田節子
「20期同期会」 20期 松下和隆
「オレゴンからの手紙」 26期 畠山 潤
- 6 会計担当から 23期 小久保光将
- 7 編集後記

表紙の言葉

今年の春の小屋作業の際に撮影したもので、いつもと変わらない景色ですが、桜も満開で、道さえよければとつくづく思った次第です。

会長挨拶

今年も猛暑や災害に苦しめられる1年でしたが、もしかするとこれからもずっとこうした環境が続いてしまうのではと案じる会員の皆様も多いのではと感じます。

山の遭難事故も多発した年でしたが、幸い会員におかれでは慎重な行動を徹底して頂いたおかげで楽しい山旅を過ごされたことと思われ、改めてお礼申し上げます。自分自身も年齢を重ねるごとに力の減少を痛感しており、力量の範囲で楽しむことの重要性を理解し活動しております。

支部活動もそれぞれの事情を踏まえながらも堅実に維持してくださり頼もしい限りです。

山小屋の今後については様々なご意見をお聞きしており、将来に不安を残さないようこの時点で具体的な対応を望まれる方も多くいらっしゃいます。一方で60年以上にわたり當々と維持してきた歴史と堅固な現状もありますのでそう簡単に行動に移すのも難しいのも実情です。

検討ばかりしていたずらに年月を費やすだけとならぬようにしたいと考えですが、おそらく少なくともあと10年程度は問題なく存続できる建物ですので、状態を観察しながら並行して対応策を検討させて頂きたいという考えになりつつあります。この件については8月に金沢市内でOB、顧問、現役に参加頂き、意見を伺っておりますが、さらに機会をとらえ引き続き皆様にご意見をお聞きしますのでどうかよろしくお願ひいたします。

現役生の活動は白山で1泊の合宿を再開するなど徐々に回復しており、かつてのような規模ではないとしても自分たちの力量を高めるべく懸命に努力しておりますので今後も変わらぬご支援よろしくお願い申し上げます。

秘境駅と飯田の街を巡るPW

17期 小島 敬

時：2024年11月7日（水）

メンバー：L 小島（17）、中野（9）、野村（12）、柴田夫妻（13）、渡邊（17）、竹本夫妻（21）

飯田線にはたくさんの秘境駅があり、『2023年秘境駅ランキング』の上位10駅に4駅（小和田、田本、金野、中井寺）もランクイン。JR 豊橋駅 朝8時集合。飯田まで5時間（！）の鉄道旅。雲一つない快晴。新城を過ぎる頃には、車両はがらがら。小和田駅から千代駅までは飯田線の秘境駅核心部。皆さん、豊橋駅で買った「秘境駅弁当」を食べながら、渓谷沿いの紅葉と秘境駅を満喫。



【飯田線 中部天龍駅】

飯田駅13:03 着、大人の散歩の始まり。焼肉研究所をまず見学。人口1万人あたりの焼肉店の数が日本一の飯田の焼肉文化はどう生まれ発展してきたのかを分かりやすく展示。次に、有名なりんご並木へ。終戦直後の「飯田の大火（1947年）」の後、防火帯道路の中央に復興を願ってりんご並木が設けられ、地元中学生が今も手入れを行う。川本喜八郎人形美術館で人形アニメ『虹に向かって』（1977年）や人形等の展示物を鑑賞。そして、和菓子店巡り開始。歴史ある個性的な店の『一不二』→『三吉野』→『和泉庄』→『田月』→『一二三屋まん十店』を巡る。飯田駅前に戻り、15:34発名鉄高速バスで一路名古屋へ。

忘年会（清須城）

17期 渡邊 和文

時：2024年12月10日（火）

メンバー：森島（4）、中野（9）、窪田（11）、森川（11）、野村（12）、柴田訓子（13）、川端（16）、小島（17）、渡邊（17）、竹本（21）、安井（22）、益川（26）

JR 清洲駅10時→清須城→昼食宴会（まつ寿司）→名鉄新清洲駅 14:30 解散。

中野ミカン山八朔狩りPW

17期 渡邊 和文

時：2025年1月16日（木）

メンバー：L 中野（9）、窪田（11）、野村（12）、柴田夫妻（13）、川端（16）、小島（17）、渡邊（17）、安井（22）

名鉄上野間駅前集合 10:30⇒中野ミカン山で八朔の収穫。お土産を沢山いただき12時解散。

八重桜と寿司ランチPW

17期 渡邊 和文

時：2025年4月15日（火）

メンバー：L 渡邊（17）、森島（4）、中野（9）、窪田（11）、野村（12）、柴田訓子（13）、川端（16）、竹本（21）、安井（22）

名鉄六輪駅10:30→桜づつみ小公園、日光川左岸堤防の八重桜並木500mを散策→昼食懇親（みやこ）→名鉄勝幡駅14時解散。

湖東五山を巡るPW

17期 小島 敬

時：2025年5月21日（水）

メンバー：L 小島（17）、中野（9）、森川（11）、野村（12）、川端（16）、渡邊（17）、益川（26）



【石塔寺 三重塔】

朝9時、三岐鉄道三里駅集合。車2台に分乗し鈴鹿山脈の石榑トンネルを抜け滋賀県側へ。

【石塔寺（いしどうじ）】見所は日本最大の石造の三重塔（高さ7.6m）。国内では他に見られないエキゾチックな石塔。渡来人が建立と言われる。

【金剛輪寺】境内の豆の木茶屋で早めの昼食。客は我々のみ。僧兵（そうへい）そばは天ぷら（三葉やシイタケなど）の量が多すぎてそばが見えないほど。本堂への長い石段にはしっかりと腹ごしらえして正解でした。【西明寺（さいみょうじ）】⇒

【百濟寺（ひやくさいじ）】⇒【永源寺】。無事に五山を参拝。青もみじ、モリアオガエルの卵や林床の花々、ホトトギスやオオルリの鳴き声、野猿など豊かな自然にも触れ、三里駅で17時解散。

近畿支部活動報告 (2024年11月以降)

名前に添字のある方は女性、○（ ）は期です。

2024 11/22(金)	丹波の古刹の紅葉狩り Pw (企画 加藤) 参加者 8名 伊豫⑧、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野⑯、三宅⑯、井上⑯、黒崎(22) JR 亀岡駅南口=国道佐伯BS～苗秀寺～神藏寺～穴太寺～穴太口 BS=JR 亀岡駅南口
	
2024 12/18(水)	池田城と五月山Pw (企画 三宅) 参加者 7名 伊豫⑧、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、三宅⑯、井上⑯ 阪急池田駅～池田城址～大廣寺～望海亭跡～五月台～日の丸展望台～大文字展望台～阪急池田駅
2025 1/15(水)	奈良・薬師寺と西ノ京Pw (企画 加藤) 雨天のため中止
2025 2/26(水)	播磨・刀田山と念佛山Pw (企画 加藤) 参加者 11名 伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑯、宇野a⑯、高村c⑯、三宅⑯、井上⑯ 加古川駅=鶴林寺=平野東～具平塚～和泉式部供養塔～教信寺～賀古駅家跡～野口神社～東加古川駅
2025 3/19(水)	甲山八十八ヶ所巡り Pw (企画 加藤) 参加者 9名 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、森川⑪、宇野⑯、宇野a⑯、高村c⑯、三宅⑯、井上⑯ JR 西宮駅北口=甲山森林公園前～甲山八十八ヶ所巡り～神呪寺～甲山森林公園～弁天池～阪急・仁川駅
2025 4/24(水)	生駒・暗峠の古道を歩く Pw (企画 井上) 参加者 8名 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑯、鈴木⑯、三宅⑯、井上⑯ 近鉄生駒駅～生駒ケーブル駅=(宝山寺参拝)=生駒山頂駅～暗峠～神津嶽～枚岡神社～近鉄枚岡駅
2025 5/29(木)	大阪・太子町Pw (企画 三宅) 参加者 10名 伊豫⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、宇野a⑯、鈴木⑯、三宅⑯、井上⑯ 近鉄上ノ太子駅=和みの広場前BS～竹内街道～孝徳天皇陵～科長神社～推古天皇陵～叡福寺=上ノ太子駅
2025 6/13(金)	六甲高山植物園と中華Pw (企画 高村c、加藤s) 参加者 6名 伊豫⑧、黒崎⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、高村c⑯ 六甲ケーブル下=(交通機関)=六甲高山植物園(園内観察)=(交通機関)=春日野道駅～中華料理店
2025 10/24(金)	大阪梅田・天王寺の徒步縱断Pw<北部編> (企画 井上) 参加者 8名:発表は次号 伊豫⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、鈴木⑯、高村⑯、井上⑯ JR 大阪～お初天神～水晶橋～適塾～取引所～高麗橋～八軒家浜～歴史博物館～難波宮跡～JR 森ノ宮駅
	
	写真説明 上:苗秀寺(丹波の古刹の紅葉狩り Pw) 下:鶴林寺(播磨・刀田山と念佛山 Pw)

支部代表・事務局の交代について

2025年10月、近畿支部の代表・事務局のバトンは5期金岩・11期加藤（いざれも後期高齢者）から15期三宅・16期井上に渡されました。今後ともよろしくお願ひいたします。

丹波の古刹の紅葉狩り Pw

・実施日 2024 11/22(金) 報告 加藤（11期）

11月は紅葉狩りの季節。京都には紅葉の名所が多い。それ以上に気になるのが、人の多さだ。やはり、ほぼ自分だけの『独り占め紅葉狩り』が理想だ。『紅葉&人狩り』になってしまるのは、さすがに避けたい。京都の市中でそれを求めるのはなかなか難しいが、桂川を少し遡った亀岡まで行けば、可能である。京都に近いだけあって、それなりの古刹もあり見ごたえのある紅葉もある。

メールで参加者を募集するとともにHPにも掲示した。当初近畿支部からの参加希望が9名いたが、病気やケガで6名に減。遠路はるばる組は、名古屋の方からの野村さん、彼は丹波に長く住んでいたからか心情的に第2の故郷なのだろう。もう一人は金沢からの黒崎OB会長だった。

実施日前日、北日本は低気圧の影響で荒天が予想されたが、亀岡周辺は、好天が期待された。

集合は10時、JR亀岡駅南口のバス乗り場。集合地には約30分前、すでに黒崎さんが着いていた。金沢は雨だったため、天候を心配していたそうだ。冬に向かうこの季節、日本海側の天気が悪ければ、こちらは良くなるのだ。

バスの下車地「国道佐伯」。一帯は薄田野というだけあって、田園地帯である。できるだけ田舎道を選んで歩き、無事『苗秀寺』に到着した。



苗秀寺の「龍門」は三門の最初の門だ

紅葉の中に、いきなり二本の大きな石柱が立っていた。ちょっと日本離れをしているので新興宗

教施設かなと思ったくらいである。それよりも期待以上の紅葉に目を奪われた。さらに進むと、石づくりのトンネル状の門があった。これも日本ではなじみのないものだ。

この寺は奈良時代に国分尼寺として建てられ、当初は瑜伽宗だった。平安時代に天台宗となり栄えたが、明智光秀の丹波攻めで壊滅。江戸時代には亀岡の殿様の援護を受け曹洞宗として再興。江戸中期に丹波の山城を境内とし、麓の現在地に移転、修行の寺として今日に続いている。薬医門にはそれを示す「丹山法窟」の額が掲げてある。



「苗秀寺」参道の紅葉

「苗秀寺」といういかにも農村地帯に似つかわしい名称かと思ったが「叢林（そうりん）の靈苗永く無窮に秀る」にちなんだもので、中国由来の言い回しとのこと。なお、瑜伽はヨガに通じ、奈良時代の法相宗の思想的源流とされる

（私も今回の執筆調査で初めて知った語彙だ）。

やはり我々は凡夫なのか、紅葉に心を奪われ、この寺の一風変わった造りにはあまり目を向けなかつた。先ほどの石柱は「龍門」、次の石造りのトンネル門が「白象門」、そして紅葉の参道坂を登りつめたところの三百年前に建てられた「医薬門」、この3つで三門を構えるなど、他の寺にはない独特的の構造が見られた。それに気づいてカメラを向けていた仲間もいた気もするが……。

確かに、拝観は無料だし、寺も掃き清めてあつた。ここには観光寺とはちょっと違う緊張感があった。そのため、自然と静かに境内を歩くことになった。拝観を終え、白象門を抜け前庭に着き、ここで昼食。やっと開放的な気分が戻ってきた。

紅葉の中に屹立する龍門。その2本の柱の背後に青い山が見えた。なんだか不思議ときれいな風

景だった。なんだか漢詩を思わせる風景だった。



神蔵寺の入り口に架かる「みかえり橋」

苗秀寺から神蔵寺へは田舎道を選んだ。神蔵寺の手前では開発が進んでいた。道の最後は山寺に向かう風情、それは以前と同じだった。

寺の入り口の「みかえり橋」からすでに見事な紅葉が迎えてくれた。まさに最盛期だった。山門をくぐり、本堂に進む階段下の樹齢400年という大木のイロハモミジが一番有名であるが既に散っていた。いつもこの木の紅葉は早いという。

神蔵寺は最澄が開き、本尊(重文)は延暦寺・根本中堂の薬師如来と同じ木材で彫られたといわれている。しかし、藤原時代の様式であるなど、最澄が彫ったことと矛盾もあるらしい。伝承というものはそのようなものだ。

平安時代は源氏の崇敬も深く栄えていたが、源三位頼政が平家追討に加担したため、敗戦処理の所領没収で荒廃した。だが天台宗であったため、鎌倉時代から室町時代に再び丹波随一の寺として興隆を誇ったそうだ。それも明智光秀の丹波攻めで壊滅。本尊だけは菰に包まれ本堂横の谷川に隠されることで難を逃れることができたという。



「穴太寺」の山門にて

江戸初期には一旦浄土宗となり本堂、阿弥陀

堂、鐘楼が再建される。その後、亀岡城主が妙心寺派の高僧を招き、爾後、現在に至っている。

神蔵寺を出たところから穴太寺までは、ほぼ山際沿った田舎道があり、のんびりと歩けたが、またもや地図にはない新設の農道がつけられ、ついそちらに誘導された。避けたかった県道歩きだったが、短区間といえ県道を歩くはめになった。

以前もほぼ同じ時期に、この西国の大所である穴太寺に来たことがある。同じように今回も殆ど参拝客がいなかった。朱印所の方に聞くと、時期的にも終わりとのこと。団体で来るバスツアー客のことだろうか。それだけにのんびりできたが、既に紅葉バージョンになっている我々の目からすると、見るべき紅葉があまりない寺だった。

本堂の裏に回ると大きな銀杏の木が黄色の葉を纏って立っていた。なんとも不思議な銀杏と思ったら、土筆の頭の形に剪定されていることに気づいた。下にはどっさりの黄色の葉っぱが積み重なっていた。それを手に掬って撒くと梢から落ちてきたかのようにヒラヒラと舞い落ちる。そこは誰もいない空間だったので、恥ずかしげもなく童心に返った気分で、それを何度も繰り返した。



大銀杏の黄葉で童心に帰り遊んだ

カメラにうまく収めたいが、シャッタを切るタイミングが非常に難しい。だが待てよ。とその時いいアイデアが浮かんだ。スポーツ用の連写の設定だ。やはり決定的な画像が得られた。まるで『銀杏散るなり童の頭に』句がぴったりだった。

三つの寺を巡ったことで、心の中はすっかり清められたようだった。「穴太寺門前」発のバス時刻には相当な待ち時間があったので、近くの「穴太口」まで歩いた。昔ながらの民家と田んぼを通り抜ける道だ。愛宕山が穏やかな形をしていた。

丸一日という長い時間をかけた紅葉狩りだったが、亀岡駅に着いたのは15:45だった。

池田城と五月山Pw

・実施日 2024 12/18(月) 報告 三宅 (15期)



「逸翁 (小林一三の雅号) 美術館」前にて

池田市は大阪府の北西部、大阪平野の北辺に位置し市北部は五月山などの山地が連なり南部は猪名川が流れる平野となっています。阪急が初めて住宅分譲をおこなった地らしく閑静な住宅街が広がっています。阪急創業者「小林一三」の邸宅跡は「小林一三記念館」になっています。今回のPwは五月山公園のハイキングコースを歩き最高到達地点の「日の丸展望台」315mを目指します。地元の小学生の遠足コースらしいですが我々高齢者にはどうでしょうか。

集合は阪急電車「池田駅」に10時。桑名から11期の森川さんが参加し、総勢7名です。

池田駅前のサカエマチ商店街を通り抜け10分程歩き「池田城址公園」に到着。池田城は室町時代から戦国時代にかけてこの地域を支配していた地方豪族・池田氏の居城だったそうです。日本庭園の横に中々立派な「やぐら風の展望休憩舎」があり、登ると池田市街などが一望できました。



「大広寺」境内にて、後ろが三門

池田城址から歩いて10分で五月山公園の中腹に

ある「大広寺 (だいこうじ)」に到着。池田城主池田氏の菩提寺で1395年創建。曹洞宗の寺院です。こここの境内からも池田市街が眼下に望め、もみじの紅葉がまだ残っていて綺麗でした。

境内から五月山ドライブウェイに出て少し登ると、五月山ハイキングコースの「望海亭コース」入り口に到着。いよいよハイキングの始まり。いきなり急な登りを20分で修禅の場「望海亭跡」に到着。更に5分で五月台に出る。ここはドライブウェイの展望台にもなっており、大きな駐車場もあります。眼下には猪名川が流れ、六甲山をバックに伊丹から宝塚の街が見渡せます。ここで昼食休憩。日差しも暖かく素晴らしい展望を見ながらの食事は気持ち良かったです。



昼食は「五月台」からの大展望を見ながら

昼食後は「自然とのふれあいコース」を歩きます。このコースは五月山ドライブウェイに沿っており上り下りの少ない静かな森の中を歩きます。20分程で「吊り橋」に着きます。立派な10メートルほどの橋で楽しそうに渡った方もおられました。

10分ほど歩くと「五月山霊園」の駐車場。霊園を通り抜け少し登ると今回Pwの最高到達地点の「日の丸展望台」です。らせん状の高さ10メートル位の大きな塔でらせんのスロープを登ると大阪平野が一望出来ます。美しい夜景が楽しめるそうです、大阪空港が近く、飛行機の離発着が見られました。

日の丸展望台から池田市街までは「五月平高原コース」を下ります。途中「大文字焼き」の点火場所で休憩。池田市の「がんがら火祭り」として毎年8月24日に行われるそうです。江戸時代から続いているそうです。ここからの展望も素晴らしい、生駒、葛城、金剛山、六甲山まで一望できま

す。

階段状の急な坂道を30分ほど下山すると五月丘小学校到着。「小林一三記念館」の前を通り、サカエマチ商店街にある本日の最終地点「麺惣更科」へ。地元では人気の自家製麺のうどんを食べ、解散となりました。



「五月平」の休憩舎でお茶会を楽しんだ

12月にしては暖かく、紅葉もまだ残っており、気持ちの良いハイキングを楽しむことができました。

奈良・薬師寺と西ノ京PW

・実施日 2025 1/15(水) 雨天予想のため中止

播磨・刀田山と念佛山PW

・実施日 2025 2/26(水) 報告 加藤 (11期)

今回のPW名は「刀田山と念佛山PW」と山らしい名にしたが、実態は「刀田山鶴林寺と念佛山教信寺PW」であり、街歩きの企画である。

「刀田山鶴林寺」は、聖徳太子ゆかりの寺として知られている。寺の縁起によれば、589年、聖徳太子は播磨に住んでいたという高麗出身の僧・恵便を訪問し、教えを受けたという。太子が播磨まで足を運んだ理由が気になり、調べてみると、584年に恵便を師として、渡来人の娘たち三人が出家し善信尼・禪藏尼・恵善尼となつたことがわかつた。これが日本初の僧(尼僧)の誕生であった。つまり、当時の日本には仏教の教えを授ける僧がまだ不在だったということに納得した。

その恵便も、都での仏教排斥を避けて播磨に移り住み、還俗していたというから、そのような時代であったこともわかる。もう一つは、渡来人も正式に日本人として認識されていた点も重要である。当時の近畿地方における渡来人の比率は25～50%との説もあり、これが実態だったのだ。

余談ながら、日本の神々は怒ると災いをもたらす存在とされていたようだ。災いが起こると、どの神が怒っているのかを探り、その怒りを鎮める

ための方策を講じる。それが「まつりごと」であった。宮中で祀られていた「天照大神」や「倭大国魂」ですら、宮中に束縛していることが災いの原因とされ、崇神天皇の時代に宮中の外で別々に祀られるようになった。

そうした中で、外国の神(仏)が来れば、いざこざが起こるのは当然と考えた物部氏と、仏を拝めば良きことがあると期待した蘇我氏が争ったのも、自然な流れだったのだろう。

戦によって決着をつける愚かさは、今も世界のどこかで続いている。一方で、「神」と「仏」の本質を考えると、物部氏が敗れたのもなんとなく納得できる。仏教には、理解しがたいながらも經典という理論武装が備わっていたことも、その一因かもしれない。

JR 加古川駅から鶴林寺までは、時間節約のためコミュニティバスを利用した。門前には「日本仏法最初 旧四天王寺刀田山鶴林寺」の石柱が立っていた。聖徳太子といえば「法隆寺」と思われがちであるが、明治以前では四天王寺の方が聖徳太子の寺として知られていたようである。

また、ここに立派な伽藍にも驚かされた。鎌倉から室町期にかけての太子信仰の興隆に伴い寺が整備され、領主並みに寺も知行地を持っていたため維持も可能だったろう。



「刀田山鶴林寺山門」の前にて

主な建物は、本堂、太子堂、常行堂、護摩堂、觀音堂、新薬師堂、三重塔、行者堂、鐘楼、楼門などで、そのうち6つが国宝または重要文化財に指定されている。本堂の薬師如来は60年に一度の御開帳であるため、代わりに新薬師堂が設けられてそれはいつでも見られる。江戸時代中期作とはいえ薬師三尊と十二神将の像には圧倒された。また、重文など多くの堂宇は扉が閉じられていた。

境内は広いので、約1時間半の見学時間を設けその間は自由としたが、なぜか皆がまとまって行

動していた。見物より会話が楽しいのだろう。

篠島さんが歩きに不安があるので、1.5kmの距離ながら全員でバスに乗り、次の目的地・具平塚へ向かった。



草莽々の「具平塚古墳」

NHKの「光る君へ」にも登場した具平親王は、播磨の赤松氏の祖先とされるためか、地元ではその名をよく耳にする。具平塚は古墳であり、草刈りをすると罰が当たるという噂があるため、草が生い茂っていた。具平親王自身は恨みを残すような生涯ではなかったが、なぜここでは祟りの神になったのか不思議である。

塚から少し離れた広い道路は「高射砲道」と呼ばれている。戦時中、加古川には飛行場や兵器工場があったが、なぜか戦災は免れている。高射砲は非常に重いため、飛行場まで運ぶための道が「高射砲道」として高規格で整備されたらしい。この道を北へ進むと「西国街道」と交差する。

街道はすぐに印南野台地の上に登る。播磨地域は瀬戸内式気候に属している。台地の先にも高い山など全くない、それゆえ水に窮していた地域である。台地の先端に「下居(おりゐ)の清水」が湧いていた。「播州名所巡覧図絵」にも絵入りで載っているが、水道が普及した今ではその形跡もなくそれを記した説明板だけがあった。

和泉式部の供養塔はすぐだった。説明板によると、花崗岩製、年代不詳であるが南北朝を下らない時代の完全な第1級の宝篋印塔とある。基礎の

「格狭間」には蓮華を浮彫とした豪華なものであるそうだ。それも4面とも違うデザインという。愛娘小式部内侍(28歳前後)失った和泉式部が、救いを求めて書写山の性空上人を訪ねた話は有名であるが、性空上人と和泉式部の年代にズレがあり、この伝承には疑問が残る。紫式部も褒めるほどの歌人であった和泉式部、その歌の多さや伝説

的行状に心打たれたのであろうか、全国に和泉式部の墓や供養塔が建つという。ここのもその一つであろうか。

西国街道をさらに東へ行けば小さな小川が流れている。新井(しんゆ)用水と呼ばれる、加古川から水を引き印南野台地を潤してきた用水、後醍醐・村上両天皇の護持僧であり、真言密教の師でもあった文觀房弘真が若い時に真言律僧として工事に携わった用水なのである。文觀を通して奈良の般若寺や淨瑠璃寺が繋がる思いがする。

ここで、トイレ休憩を兼ねて中華を食べる。年齢を重ねるにつれ、企画の際に大事と思うのはトイレである。以前ならば、街歩きでも握り飯で歩いたが、トイレを考えるとレストランも悪くないと思うようになった。しかも10名近くの人数で入るのだから、確実に座れるように、正午を避けて計画する。この日は13時半で予約し、実は鶴林寺の公園で腹の足しにと少し食べてきたのだ。

いろんな料理をとてみんなで食べると思っていたら、ほぼみんな同じ麺類を注文していた。

後半は、旧野口村の道路元標の見落としから始まったが、教信寺門前の1等水準点はしっかりと見ていた。



「和泉式部供養塔」にて

教信寺は、室町期には堂宇13、僧坊48を数えたが、秀吉による三木城攻めの激戦地となり、堂宇はほぼ全焼。その後復興したものの、幕末に本堂が焼失、現在の本堂は明治期に書写山の麓にあった女人堂の念佛道場を移築したものである。

山門をくぐり、左手にある「教信の墓」とされる五輪塔に手を合わせた。奈良時代にすでに念佛信仰の先駆者であった教信という人物の墓だ。

教信については、次の話が文献に載っている。

『摂津国・勝尾寺の住職であった勝如（法名：證如、781-867）は、一切の言葉を口にしない「無言の行」を修めていた。ある時、播磨国の教信

(786-866) という者が現れ、自分は口称念佛によつて今日往生できたこと、そして勝如の往生の日を予告して姿を消した。不思議に思った勝如は弟子の勝鑑を播磨に遣わしたところ、教信は山陽道の賀古駅近くに草庵を結び、妻帯し、肉体労働で生計を立てながら人々に口称念佛による極楽往生を説き、教信自身もそれを実践、教信の死も事実であったとの報告であった。これを受け、勝如も「無言の行」を止め、以後、阿弥陀仏の念佛を称え、翌年の同じ日に往生を遂げた』と。

教信寺の縁起によれば、この逸話が都に伝わり、清和天皇（在位 850-880）が教信の徳を偲び、草庵跡に伽藍を建立して「觀念寺」とした。その後、1126 年に崇徳天皇により「念佛山教信寺」と改称した。教信は奈良・興福寺で修学した学僧であったが、それを捨てて沙弥として諸国を巡ったという伝承も後に加わったようだ。教信はその後の多くの浄土教関係者に影響を与えた。



「念佛山教信寺山門」から本堂を見る

堂宇はさほど大きくないが、配置がゆったりとしていて、気分が落ち着く寺であった。

教信寺を出て、賀古駅跡へ向かった。駅ヶ池の南側の土手は、古代山陽道の痕跡とされており、駅家跡には説明板があった。すぐ近くには具平親王神社があった。親王は中世に播磨一帯を治めた村上源氏・赤松氏の祖とされているため、この地に祀られているのだろう。

足を北に向け、秀吉によって滅ぼされたとされる野口城跡へ向かった。周囲は住宅と畠に囲まれていて遺構は分かりにくかったが、近世以前の城は意外に規模が小さいことに気づかされた。

播磨地方では、居住を主とした施設を「構居」と呼び、防御施設を備えたものを「城」と区別しているが、現地の説明板には構居レベルの記述しかなく、それが野口城の本丸だったのかもしれない。一方で、教信寺の僧兵も戦に加わったとされ

ており、教信寺を含めた複合的な廓（くるわ）構造が存在していた可能性もあると感じた。すぐ近くにある野口神社も、かつては野口城の一部だったのかもしれない。



「野口神社」でコーヒータイム

野口神社は神仏分離以前、「五社宮」と呼ばれた天台系の神仏混淆施設であり、社務所の造りが教信寺の塔頭と酷似している点が印象的だった。静かな境内で、気づけば 30 分ほど滞在し、伊豫コーヒ店のお世話になったのは言うまでもない。

西国街道は、大きなマンション群の敷地内で一部が消失していたが、加古川イオンの敷地内では歩道があり、街道の痕跡を辿ることができた。

最後に、『播州名所巡覧図絵』にもある足利左馬頭義氏の墓とされる五輪塔と説明板を見つけた。

ただし、足利氏の本貫地が下野国足利であることを考えると、この地に五輪塔があるのは謎である。

西国街道をさらに東へ 10 分ほど歩き、16 時 35 分に東加古川駅へ到着し、解散となつた。

甲山八十八ヶ所巡り PW

・実施日 2025 3/19(水) 報告 加藤 (11 期)

「三十三ヶ所巡り」といえば、一般には「西国三十三ヶ所の観音巡り」を指す。本堂の本尊が観音菩薩でなくても、その寺の観音堂に参拝するのが通例だ。それに対して「八十八ヶ所巡り」とは、弘法大師ゆかりの「四国八十八ヶ所の寺巡り」を意味し、この場合は寺の本堂の本尊に参ることになる。

六甲山系でも特異な形をしている甲山。その山腹には「甲山のお大師さん」として親しまれている神呪寺がある。その目と鼻の先に八十八ヶ所巡りがあるとは、参加者の誰一人として知らなかつた……という、不思議な場所である。

集合は 10 時 10 分、場所は JR 西宮駅の北口。

「おはようございます。明石は晴れです」とメールを送ると、「高槻は、雪が結構降ってます」「宝塚の朝もかなりの雪が降っています」との返信。天気は西から東へ移動するというのが定石、集合時刻には晴れるだろうと期待して出かけた。

集合時刻までには太陽が顔を出していた。阪神バス 10 時 17 分発に乗り、「甲山森林公園」で下車。標高約 150m も登ってくれたが、西宮市内均一区間なので 240 円だった。安い！！



「第1番 霊山寺」にて

バス停の近くに「第一番 霊山寺<釈迦如来>」の石仏があった。これまで何度か目にしていましたが、甲山大師へ至る道しるべのような石仏で、まさか四国八十八ヶ所巡りの一部だったとは思いもしなかった。そういう目で見ると、自動車道の脇に点々と石仏が並んでいる。しかも、ちゃんと番号が振られているではないか。

八十八ヶ所は寺の本尊の石仏なので、観音菩薩だけではない。さまざまな仏が登場する。また、弘法大師の石仏とセットになっているのが特徴だ。石仏は寄進によって造られたため、顔立ちや大きさがそれぞれ異なっており、それがまた味わい深くて面白い。この特徴は、ほぼ 1~2 分で次の番号に到達するので、旅は意外と早く進行する。約 20 分で「第十二番 燒山寺<虚空蔵菩薩>」まで来てしまった。自動車道の脇にあるのはここまでで、ここからは昔からの山道を辿ることになる。

「第十三番 大日寺<十一面観音菩薩>」は、多分失われたものを近年になって再興したのだろうか。随分と新しい石仏である。次の石仏へは畑の畦道を通っていくようだ。初めての人なら「これが道？」と面食らうような細道である。

「第十四番 常楽寺<弥勒菩薩>」は畑の向こうの山裾にあった。驚くのはコースの作り方だ。山裾から少しづつ高度を上げて石仏を配置しているが、道はまるで山歩きをしているかのように地形

をうまく利用している。ヘアピンカーブの山道をたどり、山頂には「第十九番 立江寺<延命地蔵菩薩>」が置かれていた。しかも手の届かないような高い岩を組んだ上に置かれているので、ぼんやりしていたら見落とすかもしれない。

山といつても麓から山頂まで標高差 10 数メートルほどだが、階段も多く、歩くともっと高度差があるように感じられた。そこから S 字状に下り道がつけられており、途中の「第二十四番 最御崎寺<虚空蔵菩薩>」は、空海が修行したという「御厨人窟（みくりど）」に因んでか、石の洞窟の中に菩薩が祀られていた。さらに下り、「第二十六番 金剛頂寺<薬師如来>」で、山の反対側の山裾に下ってしまう。イノシシ除けかの金網をくぐって一旦神呪寺の旧参道を横断し、さらに向かいの尾根に取りつくと「第二十七番 神峯寺<十一面観音菩薩>」が始まる。尾根の標高差は約 30m。その高さの中でトラバース気味に上下しながらの道があり、仏像が点々と置かれていた。短いながらも参道がある手の込んだ石仏もいくつかある。

この尾根の稜線には石仏が置かれているが、ここからは全く気かない。よく工夫されている配置に感心した。「第三十四番 種間寺<薬師如来>」は巨大な岩を背のように持つ石仏だった。弘法大師像と対になっているはずだが、失われたものもある。廃仏毀釈の時代に首を折られた大師像も多く、顔と胴体が不似合いなものも見られた。



「第40番 観自在寺」にて

「第四十四番 大寶寺<十一面観音菩薩>」でトラバース道は終わり、再び参道を横断して向かいの尾根に取りつく。辿ると基本的に岩山から成る目神山の最高点に至る道である。「第四十五番 岩

屋寺<不動明王>」から「第五十五番 南光坊<大通智勝如来>」まではほぼ平坦な山道だが、以降は岩が混じる山登り気分が楽しめる道となる。



巨大な岩から成る「第50番繁多寺」の祠

面白いのは、「第五十番 繁多寺<薬師如来>」だ。深いゴルジュ風の岩の廊下の奥の穴に石仏が置かれている。不思議なのは「第四十八番 西林寺<十一面觀音菩薩>」と「第四十九番 淨土寺<釈迦如来>」の間に「是ヨリ土佐ノ國十六ヶ所」の石柱である。両寺は松山市にあるため、なぜ土佐の国境の石柱がここにあるのだろうか。

「第五十六番 泰山寺<地蔵菩薩>」からは階段を登る。藪もあり、石仏の配置が分かりづらいため見落とす可能性もある地帯だ。「第六十番 横峰寺<大日如来>」まで登ると目神山の稜線、一気に北方向の視界が広がる。六甲山から摂津の山々や宝塚市や池田市の市街地まで見渡せる。甲山と山腹の神呪寺が、極楽浄土図のように見えた。

目を西にやると、目神山のランドマークである宝塔が間近に見える。目神山頂には「第六十二番 宝寿寺<十一面觀音菩薩>」があり、休憩には最高の場所だったが、すでに12時半を過ぎていたため、我々の昼食場所へ直行することにした。



「目神山」の磐座にて、眼下は阪神の市街地
昼食は、巡礼ルートから外れた目神山の磐座といわれる場所で食べることにしていた。そこは、

西宮という地名の元になった広田神社の神と関係が深いらしい。目神山の南端の崖の上に位置するため、生駒山系、葛城山系、淡路島、六甲山系まで見渡せるこの好展望地、約1時間で過ごした。

さらに巡礼道から外れたもう一か所、「牛の祠（と勝手に名付けた）」場所へ案内した。此岸がここ、六甲山と甲山がまるで彼岸に浮かぶ島のように見える。その間の樹林帯が海のように横たわり、目神山のランドマークと説明した宝塔が、海に浮かぶ灯籠のように見えたのは、私だけだろうか。

さて、ここから元の巡礼道に戻り、記念写真を撮った。道に順い目神山を下り、「第六十五番 三角寺<十一面觀音菩薩>」の先で再び神呪寺の旧参道を横断した。ここが旧参道のほぼ峠である。

今度とりつくのは、先ほど山腹だけを歩いた尾根であるが、最初の「第六十六番 雲辺寺<千手觀音菩薩>」から稜線歩きである。山腹にあるはずの仏像と道は、木々に隠されて見えなかった。



「役行者・前鬼・後鬼像」とともに、背後は甲山
稜線道の圧巻は、「第七十二番 曼荼羅寺<大日如来>」と「第七十三番 金倉寺<釈迦如来>」の間にある大きな花崗岩の上に置かれた「役行者と前鬼・後鬼」の像である。この辺りの重畠とした花崗岩に、自分が岩山に居ると錯覚してしまうほどだった。甲山を背景に記念写真を撮った。

稜線道は「第八十二番 根香寺<千手觀音菩薩>」を最後に、自動車道に出る。道路の向こう、甲山の斜面を「第八十三番 一宮寺<聖觀音菩薩>」から「第八十七番 長尾寺<聖觀音菩薩>」まで歩いたが、結論は神呪寺の伽藍内だ。直接つながる道はないため、一旦、道路に戻り寺の正面から登ることになる。ここでトイレ休憩とした。

神呪寺の階段を少し上ると、早咲きの桜が咲いていた。西宮市の市花が「桜」である。そのことからも、この地には珍しい桜があるらしい。この時期に咲く「今津寒桜」という品種があることは

知っていたが、確証はない。

神呪寺の階段を登り、目神山のランドマークである宝塔を確認したり、「第八十八番（結番） 大窪寺＜薬師如来＞」と一緒に記念撮影したりで、ゆっくりと時を過ごした。階段を降りて仁王門を眺めた頃には、時刻は15時40分になっていた。



「神呪寺」の早咲きの桜

歩き足りない人もいると思い、さらに甲山森林公園を越えて歩いたが、予想以上に時間がかかり、阪急仁川駅に着いたのは17時頃だった。

生駒・暗峠の古道を歩く Pw

・実施日 2025 4/24(水) 報告 井上 (16期)

暗峠(くらがりとうげ)は奈良街道の生駒山にある峠を指す。この峠道は、奈良の都と難波を結ぶ最短コースであり、奈良時代から多くの人が行き来する場所だった。唐や朝鮮からの外国使節らもここを通ったと言う。江戸時代になると、更に人の行き来が盛んになり、大和郡山藩の本陣も峠にあった。松尾芭蕉も最期の旅でここ暗峠を越え、大坂入り。その年、有名な「旅に病んで…」の句を残し亡くなっている。

この奈良街道を中心に据え、わが身を考えると、重量制限を超えたボディは上りにめっぽう弱い。出来れば下り専門にしたい。ありがたいことに、ここ生駒山にはケーブルがある。近鉄と繋がって交通の便も良い。ケーブルの途中に寶山寺(ほうざんじ)もある。大阪商人が商売繁盛を願う信仰の山。「聖天さん」として親しまれる寺院だ。

まず、ここを訪ね、更にケーブルで山頂を目指し、遊園地から尾根伝いに暗峠に行き、そこを下るコースとした。このコースの最大の欠点、それは遊園地から峠を下るまでトイレがないことだ。峠に茶屋はあるが、平日は閉まってトイレが使用できない。これが我らシルバー族にとって、一番

の関心ごとである。

当日10時、近鉄生駒駅に集合した。揃って元気な笑顔がそこにあり、一安心。生駒ケーブル鳥居前駅に移動する。ブルドックの顔にデコレーションした子供向けの車両はやけに可愛い。生駒ケーブルの歴史は古い。生駒鋼索鉄道との社名で大正7年創設と言うから驚く。これから行く寶山寺への参詣の足として敷設されたと言う。それ位、寶山寺が参詣者で賑わっていたのだろう。乗り込むと10分程で寶山寺駅に到着。駅から近鉄生駒駅界隈が一望できる。ちょっとだけ登った感が湧き起こる。ここから、更に参道の階段を上る。お喋りしつつ上るので余り気にならないが、過重量の身にはこたえる。参道の両脇に古めかしい宿屋や土産物屋が軒を連ねる。そこは記憶にある昭和の匂いが今も残っている。「男はつらいよ・浪花の恋の虎次郎」の舞台にもなり、渥美清が雪駄で登った参道もある。

坂を上り切ると寶山寺の山門が仁王立ちに迎える。惣門、中門を抜けると境内は岩山に囲まれ、堂塔が山肌にへばりついている。寶山寺は南都六宗の一つ、真言律宗の大本山である。因みに、總本山は奈良の西大寺である。次いでここが主要な寺院となっている。



「生駒山宝山寺」の本堂

ここで祀る大聖歓喜天（だいしようかんきてん）は象の顔を模した神、現世利益（げんせりやく）をもたらす神として崇められる。そのため、大坂商人の信仰を集め、「生駒聖天さん」や「聖天さん」と呼んで、毎月1日に翌月の繁盛を願うと言う。今日は24日、まだ少し早い。象の形をした神の姿や聖天さんの好物と伝わる大根をレリーフに描いたのが、あちこちにある。とあるTV番組で大根のレリーフが幾つ見つけられるかとゲス

トに問う場面があったが、難なく幾つかは見つけられる。山腹にある奥の院に登った。そこからは堂塔が一望できる。奥の院でお賽銭を奉納、無事を祈る。



生駒ケーブル「梅屋敷駅」にて

再び生駒ケーブルで生駒山頂を目指す。山頂駅との間にある、一つ先の梅屋敷駅まで歩こうとの提案。同じ寶山寺駅に戻るのでは、新鮮味がない。即座に提案に従う。言う程の距離ではないが、上りと聞くと足が鈍る。途中踏切を渡る。ケーブルの踏切は危険。線路の中央にケーブルがある。それもむき出しのケーブルが地面から少し浮き上がり、可なりのスピードで動いているのだ。足を取られないよう慎重に横断する。

梅屋敷駅に着く。「岩屋の滝」が近くにあると案内板に記す。まだ時間の余裕もある。好きもの二人が見学に出向く。駅から少し下り、200m程の距離に大聖院と書かれた寺がある。その奥に石に開けた小さな口からちよろちよろ水が流れ出ている。これが「岩屋の滝」である。迫力に欠けるものの、信心深い人にはありがたい存在なのだろう。一礼して速やかに駅に戻った。

待つ間もなくケーブルカーが来る。10分程で山頂。山頂は開けた遊園地となっている。入園料は無料。気軽に入園でき、実にありがたい。



生駒ケーブル「梅屋敷駅」にて

中ほどの花壇には、色とりどりのチューリップが咲き乱れている。山頂近くに未だ桜が咲き誇っている。珍しさに集合写真を撮る。近くにトイレ

もある。下山するまでトイレがないことを伝え、暫しの休憩とした。この後、いくつかのアトラクション脇を素通りし、電波塔の合間を抜けると、漸く山道になる。それまで多かった人通りも、山道になると途絶える。赤土の道は雨水で抉られ、歩き辛い。ただ、なだらかな下りに、気が弾んだ。

ワンピッチで目的のパノラマ展望台に到着。有料道路の信貴生駒スカイラインを横断すると休憩所になっている。自販機が2台と屋根付きベンチが備わっている。高台の先端に位置するので、見晴らしが良い。その名の通り、概ね270°のパノラマが眼前に広がっている。奈良の平群（へぐり）盆地から大阪平野、茨木・高槻辺りまで一望できる。天気も良い。遠方の淡路島や開催中の万博辺りがくっきりと見える。ここで昼食を摂った。恒例のお菓子交換会が始まる。どれを頂いても美味しい。景色の所為なのか、卑しさの所為なのか判然としない。パノラマを堪能し、名残惜しいがここを後にした。

歩く人も少ないのか、行く手に草が生い茂り、道が解り難い。大阪に向かう方向に道がある。先に進むと案外山道はしっかりとしている。緩やかな下りで至って快調。ところどころ生駒スカイラインの車道が横に現れたが、車道脇の山道を歩く。小さな祠を過ぎると直ぐに石畳の道とぶつかった。道路わきに暗峠の碑が立つ。ここが今回のメインの目的地だった。峠には茶店があり、人がいた。電話で事前に確かめ、この日は休みと聞いていたのに、なぜと思いつつ、店員に聞く。これからTVの取材があり、急遽開店したと言う。メディアが言えば店も開けるのかとの不満もあるが、今回は真にありがたい。トイレ問題が一挙に解決したからだ。飲み物は注文可能と聞き、ぞろぞろ店に入る。天気も良いので、庭の丸テーブルを陣取る。オーダーは限定的だが、好みの飲み物を注文。我らは誰が来るのか興味津々だった。待つことしばし。数人の声がする。覗くと自転車に乗った芸人らしき人物とそれを取り囲むスタッフの面々が一塊りで現れる。芸人の方は吉本所属の「まりこ・ひろゆき」さんと教えられた。スタッフに聞くと、5月15日、ABCテレビ「news おかえり」で放送予定と話す。撮影中、我らは普段の声も控えめにし、身も正した。撮影が余りにも長いので

スタッフにこれから出かけると伝える。表で記念撮影。まりこさんは気さくな方。これを見止める

と撮影に割り込み、ポーズを決めた。



「暗峠」の茶店の前にて

後日談ではあるが、このTV番組を録画し、つぶさに見た。そして、いくら見直しても、我々の姿は全くなかった。見事な空振りである。

次に大和郡山藩の本陣屋敷跡に向かう。本陣跡は峠の奈良側、少し下った所。そこを眺めるが痕跡など見当たらない。石碑の「本陣跡」だけがその在り処を示す。当たが外れ、大阪側へ向かう。



「暗峠」の本陣跡にて

下り始め、峠の説明書きがある。峠の付近にある石畳は江戸時代からのものらしい。この石畳が歩き勝手を改善したのは間違いない。ただこれも峠付近だけで、後はアスファルト舗装の道路となる。恐らく当時はごつごつした山肌を登り下りしたのだろう。現在は国道308号線となって車も通る道となっている。通行量はそれ程多くはない。と言うより、地元車以外は殆ど走ってはいない。棚田と弘法の水を過ぎると急激な下り坂となる。いくら下りと言えども限度がある。足や膝もこたえ始める。車道の勾配ランキングで国内二番目、勾配38%の急坂である。因みに一番は、川崎市にある十番坂。勾配41%とされている。こんな急坂を上り下りしていた古人（いにしえびと）が如何に健脚だったか思い知らされた。

奈良街道の急坂から脇道に逸れる。神津嶽ふれあい広場へ行く道は緩やかな下りとなる。ふれあ

い広場に着くと東屋風の建物に心地良いベンチがある。ここで一寸休憩。残り少ない菓子を皆から分けて貰い、人心地がつく。伊豫さんのコーヒーが五臓六腑に染み渡った。ここを出ると少しだけ上りになる。神津嶽の頂上、枚岡神社の奥宮。そして、ここをやや下ると枚岡展望台に到着する。パノラマ展望台の景色に見劣りするものの、視界が開け、大阪平野が一望できる。ここが本日最後の景色と目に焼き付けた。心もぞろに、下って暗闇峠の道にでる。ここでもかなりの急勾配。爪先に力が掛かる。

下ると直ぐに松尾芭蕉の句碑に出会う。句碑に「菊の香にくらがり登る節句かな」と記されている。ただこの石碑は当時のものではない。最初の碑は、元禄7年（1694年）芭蕉の没後、芭蕉百年遠忌に地元の俳人・耒耜（らいし：注記）が寛政11年（1799年）建立した。その後、山津波で損壊、行方不明となった。明治23年に俳句仲間が集まり、建てたものがこれである。ところが破損した石碑が大正時代に見つかり、修復。近くの勧成院（かんじょういん）に大正2年（1913年）設置した。ならば、ここも見どころと足を運ぶ。

残る所は枚岡神社一つ。陽も傾き、やや焦る。枚岡神社は最も古い神社と言われ、旧社格の官幣大社に格付けられる。因みに旧官幣大社は全国65社ある。奈良・京都・大阪・和歌山・滋賀で半分を占め、大阪に5社。その一つが枚岡神社である。その枚岡神社へ向おうとするが、勧成院からの道が分からぬ。方向は解るが、定かでない。路地に入って行き来する内、なんとか枚岡神社に到着。



「枚岡神社」参道にて

この頃陽は落ち始めていた。受付の扉は閉じ、電灯が点る。人気のないお宮に、無事到着を伝え、御朱印札は今後の楽しみに残した。本日最後の集合写真を撮ると散会。先人が歩んだ道を踏みしめながら、やや長時間にはなったものの、歴史

を辿る一日になったのではないだろうか。

(編集者注：俳人「耒耜」については、地元の説明でも「來耜」と書かれたものが多い。これは「耒」と「來」の略字が似ていることの混同から生じた誤記。彼が農民であることからも農具「耒耜」を俳号にしたと推察するのが自然であろう。)

大阪・太子町Pw

・実施日 2025 5/29(木) 報告 三宅 (15期)

太子町。もちろん聖徳太子の太子です。大阪府南河内郡にあり生駒・金剛山地の西山麓にあり日本最古の官道と言われる「竹内街道」を東に越えると大和飛鳥に至ります。聖徳太子との関係が深い寺院や古墳が多くあります。

今回のPwは太子ゆかりの史跡巡りです。多少の上り下りはありますがほぼ平坦で私達にふさわしいウォーキングコースです。近鉄電車「上ノ太子駅」に10時集合。桑名から11期森川さんが参加し総勢10名。企画者の三宅と鈴木さんが電車の乗換を間違えぎりぎりの到着でした。



「科長神社」近くの石橋

上ノ太子駅から「太子のってこバス」に乗って5分程で「なごみの広場前」に到着し歩き始めます。「太子町役場」前を通り「竹内街道」に入り道の駅「近つ飛鳥の里・太子」に向かいます。竹内街道沿いは古民家が並び風情があります。街道沿いにある史跡「孝徳天皇陵」に立ち寄り記念撮影。「なごみの広場」を出発して1時間程で道の駅に到着。昼食タイムです。道の駅でKさんが買わされたみかんの生ジュースを皆でいただきました。

道の駅を出発して「科長(しなが)神社」に向かいます。20分で到着。八社大明神のことです。

神社を出て長い石段を7分上ると「小野妹子墓」です。聖徳太子が建てた京都・六角堂の初代住職が遣隋使妹子で、朝夕に仏前に花を供えたそうです。これが池坊流の起りになったとの事で、現在この塚は池坊が管理しているそうです。

次に向かうのは国指定史跡「二子塚古墳」です。

双方墳という珍しい古墳という事だったのですが整備工事中のため見学出来ませんでした。



「推古天皇陵」にて

田んぼのあぜ道を歩いて10分で「推古天皇陵」です。のどかな田んぼに囲まれた所にあります。33代日本最初の女帝で聖徳太子を摂政にし飛鳥文化を開花させました。ここで大休止。いつものように羊羹を大中小のじやんけん分けていただきました。ここで横浜から来たという歳も似た頃の女性一人と会いました。私達が辿って来た逆コースを行くと言うので丁寧にコースガイドをされた方がおられました。

次の史跡「用明天皇陵」まで15分。31代天皇です。ここは町のすぐ近くにあり天皇陵としては最初の方形墳で周囲は空濠で囲まれた大きな古墳です。次は街道をしばらく歩き「西方院」に向かいます。「西方院」は聖徳太子の乳母三人が太子の死後に仏門に入り建立した尼寺です。茶室に入っていいですよと言われ入りました。なんとこれが素晴らしい庭園を眺める茶室でした。無料です。ゆっくりと楽しめました。

最後は「西方院」の石段を下っていよいよ今回Pwの最終目的地の聖徳太子御廟「叡福寺」です。



「叡福寺」境内にて

バスの出発時刻まで一時間以上ありましたのでゆっくりと拝観出来ました。「叡福寺」は聖徳太子の墓を守護するために推古天皇が建立されたそう

で大変立派で大きな寺院です。境内には「聖徳太子御廟」(円墳)があります。太子とともに太子の母、太子妃の三骨が安置されています。(三骨一廟)。時間がたくさんありましたので皆さんそれぞれ自由に拝観のんびりしました。境内で推古天皇陵で出会った女性と偶然遭遇し歓談しました。私たちと同じようなコースを歩いて来ました。「叡福寺前」16時49分発の太子のつてこバスに乗って「上ノ太子駅」に戻りました。



「叡福寺」参道の階段

余談ですが桑名に向かう電車には森川さんと先程の女性がお二人で乗られ帰られました。さてどんな会話をされながら帰られたのでしょうか。他の皆さんも大阪方面の電車に乗り解散しました。

歴史、名所旧跡をたくさん楽しめる里歩きのコースだったと思います。

六甲高山植物園と中華PW

・実施日 2025 6/13(金) 報告 加藤 (11期)

六月というのは、体がまだ暑さに慣れていないうえに、梅雨の季節だけに天気が心配。企画者泣かせの時期とも言われる。そんなとき、救いになるのが六甲高山植物園だ。山上にあるためやや涼しく、天気が悪くても小回りが利く。また、園内の起伏がちょっとした登山気分を味わわてくれる。何よりも、山野草が咲き誇るこの季節、自然相手だけに、必ず新らたな発見がある。

今回の企画は、高村cさんと加藤sさんの女性コンビにお願いした。いつも事務局が企画するのでは面白みに欠ける。「やまざと」への報告書作成免除という条件提示で快く引き受けてくれた。

以前のPWを見ると、六甲ケーブル山麓駅から汗を絞りながら六甲山の南面(海側)の断層崖の急坂を登り、植物園まで歩いたこともある。別のPWでは、植物園から裏六甲を下って古寺山に咲く自生の「カキノハグサ」を見て、神鉄六甲駅まで歩

いたこともあった。いずれも結構体力を使う企画だった。そのような中で、今回は、各自の体力に合わせ、都合の良い方法で植物園に集合するとなつた。歩かないで済む計画が見透かされたのか、参加希望者はいつもより少なめだった。逆に、ご無沙汰していた8期黒崎さんからは久しぶりの参加連絡があった。これは朗報。

1週間前の天気予報は「やっぱり雨か…」という具合だったが、前日には曇りながらも降水確率10%に、企画者は胸をなで下ろしたに違いない。

当日、一次集合地のJR六甲道駅には女性2人の企画者と事務局だけという不安げな集まり、植物園には11時半頃到着。ほどなくして伊豫夫妻から「すぐここまで来ている」と携帯連絡があった。案の定、ケーブル山上駅からここまで歩いて来られたとのこと。いつもながらお元気なお二人だ。

植物園に入ると、まず「コアジサイ」がラベンダーに似た香りで迎えてくれた。私にはそう感じるのだが、「いい香り」としか言わない人もいるので、ちょっと自信がない。「シチダンカ」が、まだ若い両性花をつけていた。間もなくこの両性花が黒くなつて落ち、装飾花だけになると、いかにもシチダンカらしい姿になる。両性花付きのシチダンカは今しか見られない貴重な瞬間だ。

湿地では「クリンソウ」の花がすっかり実に置き換わっていた。まだ花をついている株もあったが、見頃は過ぎていた。「オオナルコユリ」や「ミヤマナルコユリ」はちょうど花盛り。「レンゲショウマ」は固い蕾をつけていたが、花はまだ先のようだ。その代わりに、「カキノハグサ」が見事に咲いていた。「センジュガンピ」も花をつけていたし、「サンカヨウ」はブルーベリーのような色の実をつけていた。食べられるそうだが、植物園内なのでさすがに手は出せない。



カキノハグサ

12時頃には黒崎さんとも無事合流し、全員揃つ

たところで休憩舎に移動し昼食とした。仕上げは、いつもの伊豫コーヒ店主の提供による一杯。香りも味もうまい。

13時半からは植物園職員によるガイドツアーに参加。「サラサベニドウダン」の花後の実が上向きに反転するという話には、現物を見て納得。「レンゲショウマ」はもう蕾をつけていた。レンゲショウマの後に咲くと思っていたが、今年は意外と咲くのが早いのかもしれない。

「ニッコウキスゲ」は今が盛り。白山から移植されたものだと聞いていたので、見るたびに南竜の風景を思い出してしまう。「ハクサンハタザオ」は白山では見た記憶がないが、白山がつくとなぜか嬉しくなる。「シライトソウ」「ハマナス」「スイレン」「コウホネ」なども咲いていて、季節雑多な美しさが面白い。春の花「バイカイカリソウ」もまだ咲いていた。



黒崎さんによる特別講義（六甲高山植物園内）

「ミヤマナデシコ」「キリンソウ」「エゾムラサキ」「コマクサ」「シモツケソウ」「イブキトラノオ」「ミヤママツムシソウ」など、高山植物も豊富。六月なのに、ここではもう秋の気配が漂っている。それはないだろと思わず笑ってしまう。

この時期の六甲高山植物園の目玉は「ヒマラヤの青いケシ」だが、私はあまり興味がない。それよりも、ここには多種の「エーデルワイス」があるのが気に入っていたが、最近は力を入れていないのか、種類が減ってしまったようだ。

ガイドの説明が終わったあと、植物分類学者の黒崎さんが、高村c、伊豫a、加藤sの女性たちに何やら講義をしていた。深い話をしているようで、話す方も聞く方も熱心なようだった。

夕食の中華はオプション企画だったが、結局全員参加。17時半到着で店を予約していたので、植物園の西門を15時50分に出発。「森の音ミュージ

アム」バス停から山上バスに乗ったが、満員で座れなかった。平日なのに珍しい。



六甲ケーブル「山麓駅」

山上バスの後は、六甲ケーブル、神戸市バス、阪急と乗り継ぎ、春日野道駅で下車し、商店街を南下。ほぼ予定通りの時刻に店に到着。三宮駅の西隣の元町駅周辺の中華も良いが、混雑を避けて東隣の春日野道駅にしたのだ。

店の中は空いていた。円卓を希望したが、6人では二階の畳部屋という。我々の年齢を考え椅子席の一階を頼んだ。6人なので、やはり大円卓ではなく、普通のテーブル席に案内された。中華だから注文品を分け合った。私は酢豚、高村さんはゴマ団子を外さなかった。何を食べたかはあまり覚えていないが、結構腹が膨れた。取り分けの小皿が回転寿司の時のように積み上がっていた。

黒崎さんは春巻きがおいしいとかで、奥様のお土産に注文。その気遣いが微笑ましい。



「聚鳳」での夕食会

19時頃に店を出て解散。これから暑い時期は休養期間、秋の10月の企画まで、しばしの別れである。再開を期して、伊豫夫妻は阪急の駅へ、残りの4人は阪神の駅へと南北に別れた。

参考 2024年秋以前の活動 (Pw は39号で報告済)

名前に添字のある方は女性、○は期です。

2023 10/30(月)	君影RGと妙号岩Pw (企画 高村c、加藤s) 参加者8名 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑯、高村c⑯、三宅⑯、井上⑯ 鈴蘭台駅=陸橋下BS～君影RG～妙号岩～縦走路～鶴越駅=湊川駅～池長植物研究所跡～中央市場前駅
2023 11/20(月)	高槻三好山、神峯山寺紅葉Pw (企画 三宅) 参加者10名 伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、高村c⑯、間所m⑯、三宅⑯、井上⑯ JR高槻駅=神峯山寺口BS～神峯山寺～原の登山口～三好山山頂～塚脇橋～芥川宿～JR高槻駅
2023 12/20(水)	平城坂Pw (企画 加藤) 参加者6名 篠島⑧、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑯、三宅⑯、井上⑯ 近鉄奈良駅～天極堂・押上BS=般若寺～空海寺～二月堂茶所～開山堂～南大門～奈良博物館(解散)
2024 1/31(水)	かしはら水仙郷と高尾山Pw (企画 三宅) 参加者9名 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、森川⑪、野村⑫、宇野⑯、宇野a⑯、三宅⑯、井上⑯ JR柏原駅～鐸比古鐸比賣神社～登山口～夫婦岩～水仙群生地～高尾山～展望地～登山口～JR柏原駅
2024 2/16(金)	甘南備山と一休寺Pw (企画 加藤) 参加者11名 2/15(木)を雨天延期 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野a⑯、鈴木⑯、高村c⑯、三宅⑯、井上⑯ 一休寺バ:高田⑩
	
2024 4/5(金)	明石城・花見Pw (企画 宇野) 参加者7名 3/28(木)を雨天延期 伊豫⑧、黒崎⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、宇野⑯、鈴木⑯、三宅⑯ JR明石駅～明石城三ノ丸～本松寺～子午線標示柱～明石城・剛ノ池～天守台～JR明石駅
2024 4/25(木)	京都・当尾の石仏めぐりPw (企画 三宅) 参加者11名 伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野⑯、宇野a⑯、鈴木⑯、三宅⑯、井上⑯ JR加茂駅=(バス)=岩船寺～貝吹岩～わらい仏～淨瑠璃寺～大門仏谷石仏～山の家BS=JR加茂駅
2024 5/17(金)	六甲・シェール道Pw (企画 加藤) 参加者9名 伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑯、鈴木⑯、高村c⑯、三宅⑯ 神鉄:北鈴蘭台駅=(送迎バス)=森林植物園～東門～桜谷～(シェール道)～穂高湖(一旦解散)=摩耶山=山麓駅
2024 6/13(木)	武庫川廃線跡Pw (企画 井上、加藤) 参加者5名 加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑯、三宅⑯、井上⑯ JR武田尾駅～(武庫川廃線跡)～武庫川水管橋～西宝橋～JR生瀬駅～淨橋寺～宝塚水管橋～宝塚駅
2024 10/9(水)	古知谷阿弥陀寺Pw (企画 加藤) 参加者9名 伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、野村⑫、宇野a⑯、三宅⑯、井上⑯
	

2025年 小屋作業

22期 黒崎敏男

春の実施概要

下見 (2025年4月19日)

【参加者】OB 15期上馬、坂尻 22期奥村、黒崎
9:30 ゲート集合、協力者と合流 10:00 ダム着
11:00 ボート乗船し船着き場近くから上陸。残雪多し。
12:00 小屋着、清掃、草刈りを行う。カメムシ多し。
14:00 作業終了し、16:00 にボートでダム戻り、帰宅



本番 (2025年5月11日)

【参加者】

OB 20期久富 (送り迎え)、22期黒崎
現役 68期(3年) 山田、小畠、佐藤、鈴木
69期(2年) ハ蒙ド、藤川
7:00 イオンに集合、13期大島さんが見送りに来られる。
8:00 ダム着、2組に分かれてボートで移動。
へつりの箇所は水量が多く高巻き道を使って小屋まで。
10:00 清掃、新看板設置、ホース補修などの作業
14:00 いったん休憩した後、全体を片付け、撤収。
16:00 船着き場まで移動し、ボートで2回に分けて移動
17:00 全員がダムに戻り、ゲートに移動。イオンに移動。解散。



秋の実施概要

下見 (2025年9月19日)

【参加者】

OB 20期久富、深田 22期黒崎
7:30 ダム発、下草が多く歩きづらい。高桑碑は無事。
9:30 吊り橋手前の崩落個所を通過。う回路は多少整備がされており以前よりは良いが後半は滑りやすく危険。
10:30 水量計付近。巻き道を通る。尾根に出た個所に新たな下降道があったがこれも危険な状態のため使わず。
11:00 小屋着。清掃、草刈り、導水の作業。昼食後河原の草刈りをするがブッシュがひどく途中までとする。
13:30 小屋発、巻き道を行く。帰りは川を渡り崩落個所の手前に出る。う回路を通過しなくてよく、比較的楽に行けるので川の状況次第では活用は可能なルート。
16:00 ダム着、解散

本番(2025年9月28日)

【参加者】

OB 15期坂尻 22期黒崎 現役 69期ハ蒙ド
7:00 ゲート集合、7:40 ダム発、草刈りがされていて前回より歩きやすい。崩落個所の手前を下り川を渡って船着き場付近から上陸し、へつりの箇所から再び川を2回渡り河原の中を進んで10:30 小屋着。
導水を確保し、周囲の草刈りをしてから昼食を取る。
13:00 前回の続きの草刈り作業を行い、へつりまで開通。大幅に時間短縮になり歩きやすくなった。
14:30 作業を終了し撤収。帰りは河原を歩き、川を渡つて移動したため時間が短縮され2時間あまりでダムまで到着した。道の状況によって移動時間と安全性が相当変わることがよくわかった。ちなみに春にボートで協力くださっている小村さんからは高三郎山頂まで道を整備したい旨連絡があり意欲をもっておられました。



2025 年度活動報告

68 期 栗田樹

お世話になっております。現ワンダーフォーゲル部部長の68期の栗田樹と申します。今回は「やまと」への原稿の機会をいただきありがとうございます。

本年度は雨の多い北陸でも多くの活動を実施できるよう登山の機会を多くし、山というのを楽しんでいただくということを目標に活動を実施しました。今年度の目標を知っていただいてから詳しい活動についてご覧ください。

本年度の部員は1年生21名、2年生24名、3年生10名の計55名の部員で活動を始めました。

活動に関しては、4月の新歓時期に卯辰山ハイキングを、5月の新歓時期には奥卯辰山登山の計画を行いました。残念ながら新歓時期の登山は天候に恵まれず実施ができなかったのですが、来年度以降へのノウハウとして生かせるものではないかと思われます。

その後例年どおりの確定新歓BBQを実施し、医王山登山（こちらも天候に恵まれなかったため、希望者のみの登山）を実施しました。

本格的な登山に関しては、7月に実施した人形山登山から行いました。人形山登山に関しては、昨年度部活登山をほとんど実施できなかった部員たちにとっては久しぶりの登山ということもあり不安に思われる部員も少なからずいらっしゃいました。しかしながら、参加された部員ほぼ全員が突然の雨に襲われながらも無事登頂ができました。この登頂体験は部員にとって今後につながる良い経験になったと感じました。

その翌週には、福井県にある百名山の荒島岳登山を実施しました。こちらの登山に関しては、参加者全員が登頂でき、二回連続登山の実施、登頂ができたというのは夏休みに向けての弾みになりました。

夏休み登山

これまでコロナ禍でも続けられてきた日帰り登山はありますが、夏休みに関してはコロナ禍で部活登山として実施できなかった宿泊登山を行いました。

第一弾を石川県といえば白山にご来光を見、そして登頂をするということを目的に1泊2日で実施しました。この白山登山はテント泊10名、ケビン泊5名、日帰り4名で実施しました。宿泊登山としてここまで大規模に実施したのは6年以上ぶりでとても楽しい経験

となりました。初日は天候にも恵まれ、皆でベースとする南竜ヶ馬場野営場に向けて登り始めました。野営場まで荷物が多かった関係で相当時間がかかってしまいましたが、皆で協力して登れたのは良い思い出です。

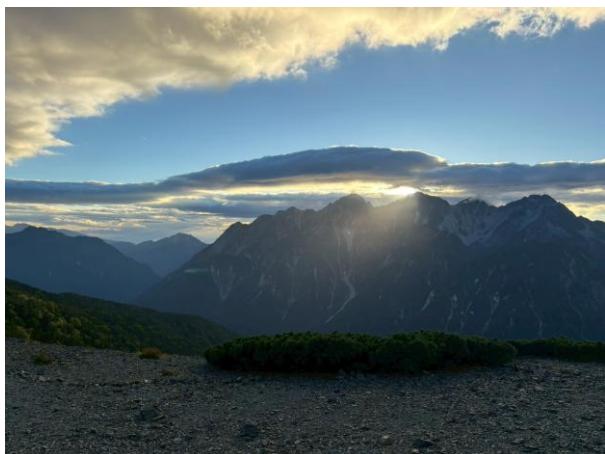
特に印象に残ったのは夕食に作ったカレーです。15人分のカレーを一斉に作って皆で食べたのはとても楽しかったです。お肉などに関しても冷凍して持っていくことで山でも普段と変わらない物が使えるのも分かりました。二日目は朝から雨が降り雷雲も接近していましたので登頂を断念せざるを得ない結果になりましたが、宿泊経験はとても良い経験になりました。



南竜ヶ馬場野営場での夕食(2025/08/26)

蝶ヶ岳登山

夏山登山第二弾として各班登りたい山を選んで登ることをしました。自分の班は蝶ヶ岳に登りました。この登山の目標は今度こそはご来光を見る！でチャレンジしました。三股登山口から蝶ヶ岳ヒュッテまで階段地獄もあり辛いことも多かったですが、登り切った際に見た雄大な景色が忘れられないです。ご来光は見られなかったが、きれいな夕焼けにガスが晴れた際に見れた景色は初めて見る雄大な景色でした。



蝶ヶ岳ヒュッテから撮影した夕暮れ(2025/09/16)

登山とボランティア

4期 佐藤秀紀

はじめに

大学でワンゲルに入った経験が私にとっては人生に大きな多くの素晴らしい道筋を作ってくれたと、84歳になった今でも、感謝している。

その一つがボランティアとの結びつきである。

「登山」と「ボランティア」は一見何のつながりもないように思われるが、私にとっては大いにつながっているのである。今回はそれについて記してみたい。

また、ボランティアについては最近は災害ボランティアンなどにも多くの人が集まるようになり言葉や活動も知られるようになってきた。

ボランティアについては、有名な女優であり、後年UNICEF 親善大使でもあったオードリー・ヘプバーンの言葉として、「人は両手を持っているが、それは一つは自分のために、もう片方は他人のために使うためにある」というのがある。

いずれにしろ、我々は多くの人々に支えられて生きているのであり、自分もできるだけ他人を支えていきたいものである。そして、支え合うことが、それぞれの喜びともなり、生きがいともなるのである。

登山とボランティア

以下に、私が経験した山とのかかわりのあるボランティアの体験を記してみたい。

私は金沢大学に41年も教員として勤務し、2006年65歳で定年退職した。ボランティア活動は退職以降のことである。

(1) 赤い靴ひもの会



ある知人の紹介で、石川県のがん患者の登山支援ボランティアの会：「赤い靴ひもの会」に2007年、役員として入会した。会では、主に県立病院でがん治療を

された山登りの好きな方々と共に、原則月1回、北陸3県の山々を日帰りで登る行事を行っていた。また夏には1泊泊りで白山にも登っている。2018年まで10年以上も入会していたが、諸般の事情で退会した。多くの山登りを体験をし、良き仲間とのつながりができた。今でもお付き合いをしている方もいる。

(2) 石川県自然解説員研究会



登山、特に白山に何度も登っている間に、多くの可憐な花に出会いすることが重なり、次第に花に魅せられた。65歳で退職して時間が取れるようになったのを機会に、もっと花の勉強をしたいことや、長年登山でお世話になった白山へのお返しをしたいと思って、2008年に入会を申し込みだ。同会は、石川県内の各所で、主に植物の自然観察会を開催しており、特に白山では夏の1ヶ月、白山室堂および南竜山荘を中心に登山者への高山植物解説などを毎年実施している。担当者は7月中半から8月中半までの1ヶ月、交代で2泊3日泊まり込み、観察会、ご来光後のお池巡り（室堂）、スライド映写会（南竜山荘）などを行っている。私は主に白山室堂での活動を10年余やって来た。「花の白山」といわれる白山に咲く多様な花をバックに、白山の火山・信仰の歴史などを交えて、高山植物の解説を行い、全国から登って来られた登山者に白山の良さを、大いに宣伝し、交流をしてきた。現在の会長は奥名正啓氏（本会15期）である。

今年2025年からは、室堂での活動が体力的につらくなつたので、南竜山荘に場所を移して活動している。体力の続く限りは続けたいと思っている。

(3) 白山高山植物園解説員

今年2025年から、(2)が委託を受けている、白峰の西山にある「高山植物園」にて解説員ボランティアをやっている。同所は、白山の高山植物を保存保護するため、低地に順化して育て保護することを研究す

るところから始まり、現在では白山には登れないが、高山植物には興味があるという多くの方々から好評で、毎年多くの入園者が訪れている。最近では観光バスで来られる団体客もあり、対応に苦慮しているのを自然解説員研究会のメンバーが有志ボランティアで解説を行っている。ここには白山の高山植物がすべてあるのではないか、ニッコウキスゲやタカネマツムシソウ、カライトソウなどが、白山主峰を背景に、斜面に群生している光景は素晴らしい。自分も白山登山がしんどくなつた今となって初めてこの施設のありがたさが分かるようになり、そこでお手伝いできることを大変嬉しく思っている。

(4) その他

直接山とは関係ないが、畑をやっている関係で草刈りのために刈払機を常用している。その関係で草刈りに関係した下記のようなボランティアをやっている。

1) 石川県農村支援ボランティア(2008~)



県下の過疎地で人手不足となっている農村地域に出向いて、主に草刈りの手伝いを行う。

県が支援しているもので、ネット募集に基づき、能登から加賀まで多くの地域にバスや自家用車で出向き、支援活動を行っている。多くの農村地域の状況を垣間見て話を聞くことができ、ずいぶんと勉強した。

2) 金沢大学キャンパス環境整備の会(2009~)

母校の金沢大学角間キャンパスは200haもあり広大である。建物や施設近くの敷地で主に刈払機による雑草駆除にかかるボランティアグループである。会創立から関り、現在に至っている。現在メンバーは主に金大OB 12名で、毎週1回、月4回、年6か月ほど活動をしている。メンバーは顔見知りで、週1の触れ合いの場にもなっている。



3) 仏子園ボランティア(2024~)

ある縁から、2024年より社会福祉法人「仏子園」のボランティアをやっている。最初は、その一組織である「B's 行善寺」(白山市)、現在は「Share 金沢」(金沢市)で主に草刈り活動をしている。この法人は「ごちやまぜ」という考え方に基づき、もともとは障碍者支援組織であったものが、それ以外に、一般人も含めた、高齢者、学生、子供たち、地域住民などなど、多くの人たちが「ごちやまぜ」に集まる施設を作り、相乗効果により、それぞれ単独の組織にはない、個人の改善が行われることを目指した施設組織である。

草刈り活動以外にも、今年は白山登山に関するスライド映写会や、「山野草園」創設も行っている。ここでは時間がゆったりと流れているように感じる。また、だれでもが働き、楽しみ、生活できる場を提供し、互いに助け合いながらそれぞれの生活を楽しんでいる感じがする。私もボランティアを通して、そのお手伝いをしているつもりである。

さいごに

他にも、能登地震にかかる県災害ボランティアなど、これまで多くのボランティア活動をやってきた。ボランティアはあくまで自分の意志で、なんとか役に立ちたいと願って、やりだすものである。したがって気持ちが自由で前向きになれる。あまり無責任は避けなければならないが、あくまで自主的な意思でやっているのであり、始めるのも止めるのも、自分次第である。その分、行動に爽やかさがある。皆様も、身体が元気なうちに、是非ボランティア活動を行って、その気分の爽やかさを味わってほしいと願うところである。

(2025. 10. 17)

夏の霧ヶ峰&入笠山ゆっくり紀行

8期 篠島益夫

昨年も7月20日過ぎの予定で同じコースを計画したものの天気予報悪化に遭遇して2度も日程を変更したが叶わず、断念したコースで霧ヶ峰の2000m近い稜線コースを愉しむという計画でした。

今回は7月29日(火)から8月1日(金)の3泊4日は好天に恵まれて予定通りの日程で愉しました。

私は昨年12月2日～20日と3月31日～4月18日と膝関節右左の関節置換手術を受けて入院しその後も通院リハビリを週3日間続けており術後は足腰にまだ自信のない体調でした。

7月29日(火)

こんな状態の私の我儘なゆっくり旅に付き合ってくれたのはワングル同期の高水間淑子さんと9期の山中重夫さんの2人で3人の山旅でした。高水間さんは京都駅で、山中さんは塩尻駅で合流して3人の旅はスタートしました。山中さんは住まいの八王子から車で合流してくれたので8月1日に富士見駅で解散するまで山中さんの車を利用させて頂きました。

10月現在もリハビリを続けている私には2000m近い稜線歩きの山旅は今年この旅が唯一になるでしょうが、それを承知で付き合ってくれる友人は彼らワングルOB以外にはなく有難い限りの永い御付き合いの賜物です。29日は15時過ぎの塩尻駅合流だったので余裕で霧ヶ峰に到着、富士山・八ヶ岳・中ア・南ア方面の展望所や翌日のコースの下見をしてから八島湿原に近い八島山荘に宿泊、夕食とそれぞれ好みのお酒で歓談して休みました。標高の関係でクーラーは無くても涼しく快適な睡眠でした。



7月29日 八島山荘の3人

7月30日(水)

この日は早めの朝食、山中車にて霧ヶ峰自然保護センターへ、私が以前は多く使った車山ビターセンター付近からのゴンドラリフトの利用は避けて今度は自然保護センターからの車山頂上への登山道を進んだ。

リフトに比べて霧ヶ峰最高点(h1925m)までの時間が1時間以上多く要するものの途中の高山植物への関心もあり、私としては初めてこのコースを選んだが、体力消耗の原因になったかも。大きな気象観測レーダードームのある頂上で休憩、以前にはなかった展望台も整備されており、この日も富士山、八ヶ岳、南ア、中ア、遠く北ア方面の展望はベストだった。この後、縦走路を大下りしてから登り返して蝶々深山に向かうが私のロウピッチが落ちてコースタイムとは無縁の時間をかけて蝶々深山頂上(h1835m)に着いた。山中さん、高水間さん共に私のロウピッチに同行するのが大変だったと思う。



7月30日 車山頂上の高水間さん



7月30日 蝶々深山頂上付近のウスユキソウ

縦走コースは蝶々深山以降も登り下りを繰り返して物見岩(h1780m)に向かうが、私のロウピッチは相変わらず膝関節の手術後の影響で下山の方が歩きも不安定になり登り以上に時間が掛かり体力も消耗しやすいのでした。物見岩からは八島湿原に向かって一方的な下りなので予想外の時間が掛かり、途中の湿原に流れ込む小川に出た時はホットして頭から水をかぶり加熱した体温を下げて気を取り直して八島湿原に向かいました。

八島湿原に沿った登山道はフジバカマ、ベニバナシモツケ、オニユリ、ツリガネニンジン、ヤナギランなど夏の花にあふれていたので、それを撮るに多少の時間が掛かり、私のロウピッチのせいで自然保護センターを出てから宿の八島山荘まで450分も掛かった。

車山頂上・蝶々深山・物見岩・小川の水場・奥霧小屋で各30分ほど休憩したことも時間が掛かり過ぎた原因ですが、こんな不調の私に付き合って歩いてくれた仲間には感謝しかありません。八島山荘下の湿原湖畔には「あざみの歌」の歌碑があった。



7月30日 八島湿原のフジバカマ

7月31日（木）

この日は早めの仕事に向かう山荘の車に便乗させて貰って前日に車を置いた自然保護センターへ向かい、ここを基地に歩きで、忘れじの丘・植物研究路を回り、保護センターの中も見学して霧ヶ峰高原の成り立ちなどを知った。過去にも100名山踏破がらみや子供達とのドライブで何度も訪れたエリアではあるが泊まりで霧ヶ峰でゆっくりしたのはこの旅が初めてだった。

整備されたグライダー滑空場もあったが29日以来、飛んでいる姿は見なかった、まだ学生たちの合宿シーズンではなかったからであろう。

レストランも期待に反してオープンしている所が少なく、八島山荘に戻って隣のレストランで昼食を済ませてから今日の宿泊地である入笠山に山中車で向かった。南アの最北に位置して中央線を挟んで北側の八ヶ岳と対面する位置にある山であるが、私がこれまで南ア登山の帰路や中ア登山と併せて孫達と来ており今度が4回目になる。山中さん、高水間さんには初めてのエリアである。頂上とその周辺部は高原状の山で湿原も多く、植生が豊富な山である。

宿の入笠湿原前やまびこ荘に着くと、頂上への登山コースの取付きが変わっているというので主人に聞いて見ると食事まではまだ時間があるので自分の車で案内してくれるという。

八ヶ岳展望所や首切清水やその近くの首切登山口を確認してから大阿原湿原を案内してくれた。私も孫達を連れて湿原の木道を歩いた事はあるが少し進むとかなり不気味になってくるので何時も途中で引き返していたが、宿の主人は慣れたものでどんどん遊歩道を進み、湿原の乾燥化に伴って増えたコリンゴやヤマナシの林

や湿原に小山のように盛り上がったモウセンゴケ群生地を案内してくれた。私は知らないまま孫を連れて行ったりしていたが案内されて知つて見ればなかなか見ごたえのある湿原であった。薄暗くなってきて熊の出没が多い場所だからもう宿を引き返そうというので宿へ戻り、入浴を済ませてからいつもの通り夕食宴会となつた。



7月31日 霧ヶ峰自然研究路のヤナギラン

8月1日（金）

この日のメインは入笠山頂上への登山と入笠湿原周辺の植物群の探勝である。頂上へは昨日宿の主人に案内して貰った首切登山口から登り40分ほどで快晴の広い頂上へ出た。展望は南アや八ヶ岳、中アや富士山など全てが視界の内だった。12時過ぎには富士見駅で無事解散、皆さんのお陰です。



8月1日 入笠山頂上の180度大展望



左上 8月1日 入笠湿原のクサレダマ群落

右上 8月1日 入笠湿原のレンゲショウマ

終わり

【記憶の中の、ウズベクの心躍る地名など】

サマルカンド(颶秣建土)、ソグディアナ、アフラシャブの丘、ホラズム、ウルゲンチ、ブハラ、ティムール帝、ビビ・ハヌム妃、ジャハンギール、ウルグ・ベク天文台、フェルガナ、ヒヴァ、イチャン・カラ、アズヤ・カラ、レギスタン広場、ザラフシャン、シャフリサブス、テルメズ、グル・エミール廟、サマルカンド・ブルー、(以上、順不動にての。)

不思議なもので、40年ほど昔の記憶が、現地を歩きながら、次々に甦えってきました。

～「個人投稿」ですが、ここで、「関東支部」お願いを～

【次回2026年版では、印刷版・Web版とも、「関東」にも場を】

OB会誌「やまざと」は、2024年版から、印刷・郵送配付版とWeb閲覧版となされました。その原稿募集2024/9/2メールでは、印刷版用として、「東海」「関西」支部については各1頁の割当てとする旨の指示がありました(「関東」戻)。そこで、追って、次回には「関東」もぜひに。とお願いしたもの、2025/9/1の、OB会長ご発信「原稿募集」メールでも、残念なことに、以前同様(「関東」戻)でした。来年版では、「関東」も採択を。なお、印刷版内でも、その不均衡が気になります。「関西」は1つのPWが各3行の記載。「個人投稿」ページでは、1行おきの7件記載で、それでもページが空いてしまい、無関係の写真も。(今年版も同様か?)当時、同期の方とは、「どの支部にかかわらず、PW 1件は少なくとも5行に」と。そうして貰えば、ページがかなり空くので、そこには最近の金大の話題などを、などと。(僭越ながら、その話題集めなどは、小生が如何ほどにでも、とまでは言いませんでしたが、さて。)

近年の外国での記憶から：承前(2015年の30号から続けての連載11回)

憧憬のウズベク — 大昔のNHK-TV「シルクロード/草原の王都」の地、サマルカンド、ブハラなどへ

11期 長岡 正利

本誌・昨年号までに続いて、今回も、近年の外国での写真等を中心に紹介させて頂きます。

昭和55(1980)に始まったNHK-TV「シルクロード」は好評の中に続き、1983年からは、「第2部/ローマへの道」として、中国からインド(ラダック)へ。更にイラン、イラクと、西へ。禁断のソ連邦諸国へ。中でも憧れだったウズベクには、「草原の王都/サマルカンド」と題しての放映でした。

一般人に扉を閉ざしていたソ連邦の辺境だったので、西域大好きの小生には、その地に行けるようになろうとは、夢のまた夢。それが、近年になって、(株)西遊旅行が現地へのツアーを出し始めていることを知るに及んで、矢も楯もたまらずに参加申し込みを。昔は、ツアー参加の場合にも、その後に別途、現地滞在とか、近隣国を経ての帰国だったのですが、78歳ともなりまして、慌ただしいこと也有ったので、直行・直帰の旅でした。

以下、現地写真を中心として、ウズベクの遺跡と人々、自然をご覧頂ければと思います。

(写真の多い拙稿では、各ページをA3でご覧頂くことを前提の解像度です。どうぞ、拡大してのご覧を。)



ウズベキスタン国旗



現地での行程(西遊旅行社)



ウズベキスタン到着から、北西部のウルゲンチ・ヒヴァへ

大韓航空機で首都タシケント着陸の前、今はほぼ干上がったアラル海に注ぐシル・ダリア(河)を越えて着陸。国営航空に乗換えての、この旅の始まりは、ウズベキスタン航空機内から。

民族構成はウズベク系が最多の多民族国家で、逊ニ派ムスリムが中心ですが、ソ連邦時代に宗教への規制が厳しかったこと也有ってか、女性の服装もご覧のようだ。右は国内旅行中の若い人達。



国内便で到着のウルゲンチから、古都ヒヴァへ。左は、現地の日本語ガイドさんとその友人。モスク(イスラム寺院)では、サマルカンドブルーといわれる、精緻なタイル模様が見事です。



ホジャ・メドレッセの、国内最大高さのミナレット(塔)。最上部の窓位置まで、内部には螺旋階段が。近くで逢った、母子。以心伝心の会話で、手でハート型を作ってくれたりの、仲々の愛嬌でした。



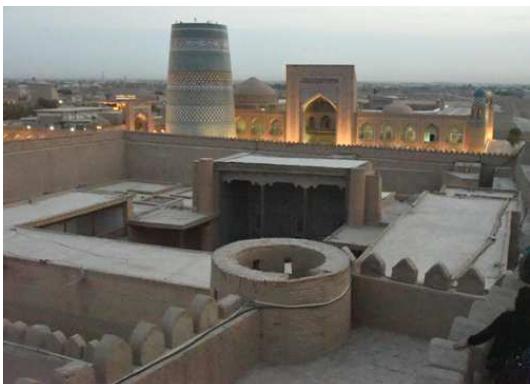
対称性重視のイスラム建築です。左の4本のミナレット(チャルモスクの塔)や、ホロハウスモスクのドーム内部では、壁面も天井も見事な幾何学模様。乾燥地ゆえに、水が重視されます。20本の柱は胡桃との由。



←：同行の片山さん撮影

左は、ブハラの中心部にあって、幾世代にも亘ってのアミール(王)の居城の門。かつては、その塔から政治犯などを落として殺したが、今は綺麗に修復されて、観光地に。写真は修復前の姿(城内での展示)。

下は、夕暮れ迫る城内と、ボランティア兼ご自身の趣味での、観光客に人気の、武人の姿。





再びアム・ダリアを渡って、ブハラの各地



アム・ダリア(河)は、シル・ダリアと同様に、アラル海に注いでいた大河。ソ連邦時代に、上流での大規模農地開発・取水で水量が激減し、アラル海の減水・沙漠化を招いたものですが、それでも、この辺りでは、ご覧のように豊富な水量。上は、紀元前2～3世紀のアヤズ・カラ都城趾。煉瓦片などが散乱。

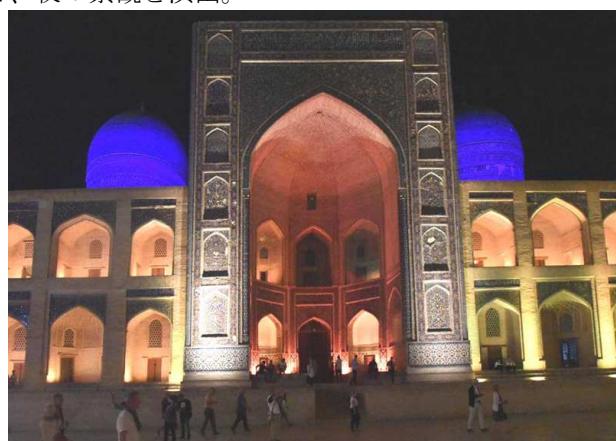
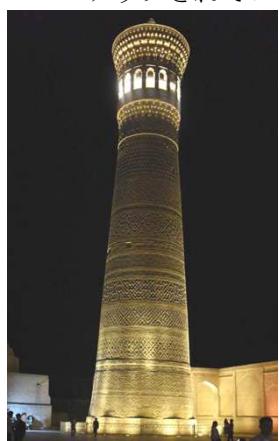


ミーリ・アラブのマドラッサ(神学校)。その広場で、お隣りのカザフスタンからの女性に逢いました。青い布をスカーフ代わりに使っておられ、「あれはカザフの国旗?」と、思わず声をかけましたら、やはり。カザフは、30年以上前に、JICAの仕事で2回滞在。当時は、ソ連邦瓦解直後の大変な国でしたが、聞けば、随分良くなっている様子でした。昔のことを色々話しておきましたら、「是非来て下さい」との。

夜になって、有名店「オールドブハラ」で、食事と併せての、民族舞踊ショーを。



のどかに夜が更けていきました。帰路、カリヤン・ミナレットや、ミーリ・アラブのマドラサが、ライトアップされていて、夜の景観を演出。



今回は、山や自然の紹介まではいきませんでしたが、ウズベクは、歴史に残る当時も今も、街を離れば、どこまでも続く沙漠と、碧空の下の山々と自然。人々との気軽な会話も愉しみつつ、彼の地を堪能して参りました。

冒頭ページ右上の、「個人投稿」
頁数制限により、続きは2026年に。

昨年の『やまと』Web閲覧版では、40数年前に訪問・滞在(仕事としては初の外国)の、オマーン再訪のことを紹介させて頂きました。下は、この秋の学会講演要旨ですが、簡潔で分かり易いかと思いまして、こちらにも。

【ご興味のかた、どうぞお越し下さい】

日本山岳文化学会 第22回大会 2025.11.29 セッションII 一般口演

当日の参加・聴講は学会会員が前提ですが、

それ以外でご希望の場合は、事前にご連絡下さい。予稿集全26p.をお渡します

海のシルクロード」の地、オマーンの40年間

長岡 正利

演者は、40年前(20歳台後半)に、JICA(当時、「国際協力事業団」)の仕事で、アラビア半島東端のオマーン国に5回行ったのですが、昨年2月に40数年ぶりに出て来ました。当時は、国を開いて10年。新しい国王のもとで、明治の日本を想わせるような、気概に満ちた国でした。かつては、腰に短剣^{スルタン}を佩して颯爽と(下写真)。今、その様な姿の人を見かけることはさすがにありませんでした。その自然は、当時も今も、街を離れれば、どこまでも続く沙漠と、碧空の下の山々の国です。ここでは、300枚程の写真スライドで、かの地の昔と現状、自然をご紹介します。



内陸の古都・ニズワ。男だけが、の眼鏡。その族長と息子さん。今は内陸山間でも夫婦同伴が普通。上は首都マスカットでの。



上のニズワの古城址43年前と昨年・案内娘も。昔、200年前に米国へ大使を送ったダウ船など遺物が散乱。今、ダウ船は観光用に。

この地は、BC30世紀頃から「マカン」と呼ばれ、メソポタミアへの銅の供給地(精錬所跡遺跡あり)として知られ、精錬の用に供するレバノン杉のような巨樹が茂っていたと思われます。

10世紀には、全イスラムにおける最も繁栄を極めた港として知られ、この時期、オマーンの海上勢力は全インド洋の交易を支配し、そのダウ船は中国・廣東にまで達しました。しかし、その繁栄は長続きはせず、1869年スエズ運河経由の蒸気船運行によって閉鎖的な経済状態となっていました。

しかし、1970年代以降は、前代国王カブース・ビン・サード(2020年崩御)によって内政と外交改革が進められ、石油収入も相まって、近代的な国作りが進んでいます。



アフダル山脈の南東麓。茶褐色部が異地性のオフィオライト。山間内陸に見る単斜構造の石灰岩。その豪椰子林内の灌漑水路。

同国を特徴づける地形は、北東側の海沿いに湾曲して連なる平野と、背後のアフダル山脈(3000mに達す)、その内陸側に拡がる沙漠地帯です。山脈の稜線部は、山脈を形成した背斜軸に一致し、山脈を構成するのは、石灰岩を主とする中・古生層です。それらのこと、スライドで詳しくご説明を。

金婚式は、外遊イヤー

15期 舟田節子

「えっ、もう来んの？」顔をみて3日目…最短記録更新といったところか？昨年は1か月で、次が5日目で、新職員は来なくなりました。そんな、職員が定着しない、認知症グループホームという職場で、5年目を迎えていました。

私の場合は、週3日のパートという「働く」があれぼこそ（不満はいっぱいながら）、身体が動き、反動としての「遊びたい」心を保っていると言えます。そして、入所者達が反面教師となり、「こんな老後になる前に、やりたいことをやっておこう！」にもなります。おまけに、山は、クマが出てダニが出て、熱中症警戒アラートばかり…。

異常気象続きで、増える一方の災害ですが、防災グッズを揃えても、しょせん神頼み。ならば、その日まで後悔なく時間を使い、「いい人生だった」と言えるように…それしかやれないのではないか？



《トロミティー ガイスラー山群 2024.5.29》

以上、理由はどうにでも並びます。2025年の私は、有給休暇と振替勤務を利用し、ひたすら海外に飛び、その後は紀行作りに励んでいました。

タイトルは、たまたまそういう巡り合わせになった…だけです。そういえば、かつて、2000年も、「銀婚式」と勝手に騒いだような…。その弾みをつけて、初めての海外トレッキング・ネパールへ出かけたのでした。

どんな理由であれ、「出かけた者勝ち」。ありがたい思い出ばかりです。結局、ストレスを解消しては、元気を維持してこられました。

さて、恒例の機関誌の方では、以下を紹介しました。

11月号…吾妻連峰

12月号…猪臥山

1月号…ドロミーティ

2月号…エジプト

3月号…於茂登岳

4月号…角田山

5月号…英彦山

6月号…荒船山、浅間前掛山

7月号…後方羊蹄山

8月号…鳥海山・月山

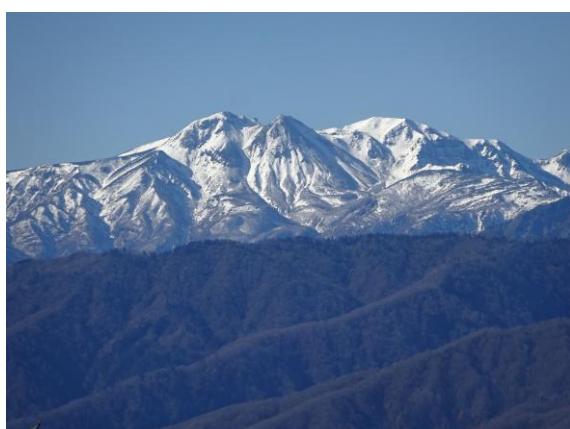
9月号…ランタン谷

10月号…五竜岳

「吾妻連峰」…『百名山』の金沢発ツアーで、吾妻山を狙った時には、天元台のロープウェイとリフトを使い、楽な反面、何でこの程度で百名山入り？の疑問が残ってしまいました。この時は、磐梯山との2山を1泊2日でこなすため、なお手っ取り早いコースだったのです。

それで久弥を魅了した吾妻連峰の魅力を知るべく、6年後には、一切経山～東大巔～弥兵衛平小屋泊～西吾妻山の縦走となる東京発ツアーに参加することになりました。

東北の秋の縦走…草紅葉、薄氷の池塘、光る裏磐梯の湖沼群、東北の名山の遠望もよかったです。団装を分けて持つ無人小屋泊は、ツアーでもやれるものです。



《猪臥山 白山の遠望 2019.11.23》

「猪臥山」…岐阜県高山市の展望の山です。現地では積雪期の展望の山としての人気があるそうですが、山頂直下まで、車道があるために、全国版山ガイド本には紹介されません。宇津江四十八滝が、東の山腹に

ある…という立地です。晩秋のロングドライブを決め込みました。2等三角点のある山頂は、冠雪の白山、御嶽、乗鞍などの北アルプスが広がる、360度の絶景でした。

「ドロミーティ」…お正月は海外の山を紹介。フラーハイキングの入っているものを物色し、トレーナー・ディ・ラヴァレード (=ドライ・チンネ 2999m) ハイキングを含む…を見つけられました。

ただし直行便のK社が成立せず、それからH社に申し込みしたら、キャンセル待ちばかりとなり、シリーズ第1回の5月下旬発で妥協。すると、3月に降雪という異常気象が尾を引き、3本のハイキング路はまだ雪に埋まっており代替コースばかりに。チロルへの峠越えも、吹雪の中を通過という目に遭いました。

ドロマイドで形成された山群は、広範囲に広がり、かつ、奇岩ぞろいです。冬期五輪の開催地になるコルティナ、神聖ローマ帝国初代のマクシミリアンにからむインスブルック、サウンドオブミュージックの舞台になったザルツブルグ。

風景とこれまでの知識がつながっていき、歳を重ねてこそこの旅の楽しみを知りました。



《王家の谷 ユル・クルン 2024.2.13》

「エジプト」…コロナでキャンセルになってしまった旅を、4年後、コロナ明け記念に実行。表紙に王家の谷のピラミッド状の山「ユル・クルン」を使ったくらいが、山がらみです。

大エジプト博物館の総工費の半分以上を円借款供与しているからか、TVでのエジプト関連番組は多数。その度、「行った！見てきた！」と楽しめる点、お得です。4500年前に砂漠で生まれた文明…それを見てから『クレオパトラ』の映画を見たら、細部が違って見えまし

た。百聞一見に如かず…は、この手の巨大古代遺跡にこそ、該当します。

「於茂登岳」…以前から、「各県の最高峰に登る」というジャンルがあり、沖縄県最高峰として、石垣島の於茂登岳だけは以前から知られていました。

「しま山」シリーズとして、他に『星の砂』のモデルの野底岳、与那国島の宇良部岳も。ツア様様です。

与那国ではDr.コトのロケ地、増築された駐屯地、近い台湾に、震撼。天気予報で思わずチェックする島が、また増えました。

「角田山」…ここを知った時、行き慣れた能登の猿山に比べて、雪割草の色数の多さ、株の多さに驚きました。でも、4時間の長いドライブが難。

それが10年後にツア利用で行き、頂上の花壇に数株だけになった激減ぶりに、もっと驚きました。山野草ブームでの盗掘のせいです。そのうえに、毎年の花見登山のスタートだった猿山も、能登半島地震で行けなくなりました。

当たり前だった自然が当たり前ではなくなる…をここでも思い知りました。



《英彦山 ヒコサンヒメシャラ 2023.5.29》

「英彦山」…ようやく成立してくれた、普賢岳と英彦山のツアで行けました。多色のミヤマキリシマで普賢岳山頂が埋まり、英彦山三名花のオオヤマレンゲ、ヒコサンヒメシャラ、ベニドウダンもちょうど開花の時期でした。

南北に長い日本…その土地ならではの植生が見られるのは、楽しみです。ホットスポットならではのありがたさです。

地元活動ガイドを雇ったお蔭で、英彦山は閉鎖中の

上部参道を使う配慮をしてもらいました。南岳へ回り込むコースだと時間がかかり、鎖場もあるしと、遠方からの中高年を気遣ってくださったのでしょう。この頃、丁度、田中陽希の「英彦山修験の道 峰入り古道」が放映されましたが、雰囲気が判り、それがまた、嬉しかったです。

「荒船山、浅間前掛山」…岩山は秋と思い込んでおり、荒船山は先に旦那と遠征登山に来た山。それが6月だと、山頂に、クリンソウの群生があり、この時期の魅力になっています。平らな山頂部に湿地が広がる…は、紅葉時期には気付かなかったことでした。

浅間山の代替がずっと黒斑山とされていた時代に、警戒レベルが下がり浅間前掛山がOKになった時はすぐ登りにきていました。

でも、荒船山とセットになった、12年後の2回目は、すっかり落ちこぼれ側になっていました。「登山中級」であっても、ツアーペースで登るのは無理かも…を思った山。

(たぶん、部活育ちの方が、最近のツアーペースには馴染めないと思います。落ちこぼれの弁かも…。近年は、ジムで鍛えているのが当たり前なのです。)



《浅間前掛山 シェルターのある山頂部 2022.6.19》

「後方羊蹄山」…登りが5時間強の日帰りの山ゆえ、2度目、3度目のチャレンジが多い山に、1度目で登れました。

初日に、ニセコアンヌプリから眺め、2日目が後方羊蹄山、3日目が余市岳に登ってから帰京…といった、予習・本番・復習を、ツアーナラコその効率のよさ！と思った山でした。

深田久弥は、「ようていざん」の読みには異議を唱えています。日本書紀（659年）にすでに「しりべし」

と記されていること。「後方」を「しりへ」（後ろ）、「ようてい」を「し」と読ませたもので、これは牧野富太郎の植物随筆によれば、「羊蹄」とは「ぎしぎし」という草の漢名であって、日本では昔「ぎしぎし」のことを単に「し」と呼んだ。それで…と、たっぷり紙面を割いているのです。

百名山は久弥が思い入れ深く、名山と推奨し、その理由を解説している山々。日本山岳会が人気投票を参考に選定した三百名山、深田クラブが選定した二百名山との違いを、こんな箇所で感じます。まさに「読み歩き、書いた」（墓標の脇字）人生だったのです。

15年後、弘前城、五稜郭の花見尽くしツアーペースで近くを通った時には、中国に蚕食されたニセコが話題になっていました。

「鳥海山・月山」…夜行1泊2日ツアーペースで登った山を、4年後に、2泊3日マイカー利用で再登頂。遠方ゆえ、縦走しないともったいないとは思うものの、下山先からマイカーへ戻るための2回のタクシーはやはり高かったです。あらためて、ツアーペース利用の方が、時間も費用も無駄がなく、特に帰路が安心です。

どちらも、信仰での白装束登山者が多い山です。

多雪地帯ゆえ、白山と同じ植生でした。高山植物の多い白山が近くにあるのは、ますますありがたいことに思えました。



《千蛇谷雪渓と鳥海山の新山 2013.8.15》

「ランタン谷」…ネパールの夏を紹介と、18年前のをひっぱりだしました。まだ、ポジフィルムをスキャンして取り込むまでだった頃…長岡先輩主導のOB海外PWでした。モンスーンのさなか、麓に行つてもランタンリルン7225mなどが垂れこめた雲で見えず。

雨とヒル三昧だった旅は、素顔といえるネパールを

見られ、それはそれで貴重な旅でした。厚いヒマラヤの花写真集を見ても、当然に背景は曇天です。

ここには、「ティルマンが、世界で最も美しい谷の一つ」と称した…との説明がつきます。それはいいとして、ティルマンって誰? この機会に検索し、英國生まれで、戦前のエベレスト登山隊長を務め、ナンダ・デヴィの初登頂者。高所登山の後は探検航海で活躍し、「高い山 はるかな海」などの著作も多かった方…と知ります。山を辞めた後は、海への冒険になったのか…に、自分の関心の変化に気づきました。

「五竜岳・唐松岳」…マイカーで、1泊2日でやれる縦走。後立は近くで、縦走がやれて、嬉しい山域です。百名山に入っている山は、特に、久弥の本を読み返し、紹介文章内に引用もします。しばしば、意味は予想できるけれど、読めない形容詞や副詞が登場し、分厚い漢和辞典を調べることになります。全てを「やばい」で済ませてしまう現在が、豊かになり高尚になったとは到底思えません。

秋に縦走したのは16年前ですが、今より空気は澄んでいて、紅葉も鮮やかでした。



《牛首から振り返り見た五竜岳 2009. 10. 4》

ドローン映像が見られるようになり、「5分で百名山」や「15分で百名山」が、地デジでも、BSでも、プレミアム4Kでも見られるようになりました。そのたび、懐かしく、楽しめます。私は昔も、花の写真を多く撮っていた方です。今見返してみると、そこにその時咲いてくれた花は、命のシンクロをしてくれていたように思えます。

悲惨なニュースを見るたび、ますます「行けるうちに」を思った金婚式イヤーは、

2/12～19 アメリカ大自然紀行

5/29～6/4 武陵源と天門山・鳳凰古城

6/27～7/5 スイスフラワーハイキング

9/13～18 パース ワイルドフラワーめぐり

10/15～19 九塞溝・黃龍・成都

という具合でした。

アメリカ後には、友人達が発病し、「一人参加でも行く」となりました。スイスでは昨年の異常気象で、ツエルマットが浸水し、氷河特急やゴルナーグラード鉄道が運休していたことを知ります。ドロミティーでの無念が残っていた私は、「アルプスが不遇だった年の片鱗を味わっていたのだ」…と思い直しました。



《スイス キジムシロの仲間とマッターホルン 2025. 7. 1》

65歳以上が、29.4%を占め、75歳以上が、2000万人を超えた時代…100歳も、来年には10万人を越えることでしょう。

外遊者は元気かといえば、みなさんのテーブルの上には、薬とサプリメントが積みあがっています。飲んで維持する元気…のおまじないでもあるようです。

「低山」「しま山」の次には、「フラット登山」の言葉が出てきて、それが、富士山5合目から下っていくものだったのには唖然。「敗退」を「転進」と言い換えた時代が思い浮かびました。もう少し潔く、冷静でいたいです。無事故を幸いとして…の一線を引いていかねば!と思います。

山どころか、元気な日常で十分と、年々、目標は妥当に下がっていきます。

というわけで、明日も、年齢差が縮まっていく職場へ向かいます。ハイホー!

2025年いちご会「春の近江八幡水郷巡り」

11期 井上史三

11期のいちご会では近江八幡市の水郷巡りをしてきました。4月17日（木）から18日（金）の二日間、片田寛さん、上村人史さん、窪田安英さん、杉森和義さん夫妻、加藤忠好さん夫妻、向幸子さん夫妻と井上史三、和子と、東は関東支部から西は近畿支部までの総勢11名の参加となりました。

初日4月17日（木）はJR近江八幡駅に各自それぞれ電車、車での集合で全員そろったところで早速水郷巡りの乗船場へと向かったところです（片田さんは乗船場で合流）。



乗船場の茶屋まえにて

（加藤忠好撮影）

二艘の和舟に乗船したのですが、船頭さんはこのようないでたちで水郷巡りの情緒を楽しく盛り上げてくれました。

乗船してしばらく、細い水路を抜けてやや広いところで船頭さんは和舟の櫓をこぎながら水郷巡りの魅力を語り、のんびり唄などで我々を楽しませてくれました。



加藤忠好さんなどは、船頭さんの櫓をこぐ姿に「私にも漕がせてくれませんか」とリクエスト、船頭さんは快く承諾し「このようにして漕いだらよいですよ」と手ほどきまでしてくれました。



和舟の櫓をこぐ加藤さん

、
加藤さんは手慣れたものでまっすぐと進むことができたところで、それではと私（井上史）も生まれて初めての櫓漕ぎに挑戦、でもやはり見様見真似は難しくてヨレヨレの航跡しかできませんでした。

水郷ヨシ群生地を横に見て更に広いところでは正面に安土城址の小山が望め、あれが安土城址かと思い、明日にでも行ってみようかとの気持ちにさせてくれました。



正面の三角小山は安土山



水郷巡り行程図

水郷弁当付きの和舟水郷巡りを終えて、本日の宿泊場所 休暇村近江八幡に向かう前に、水郷近くのラコリーナ近江八幡に立ち寄り、その奇観ともいるべき建物と名物のバウムクーヘンの製造工程を見学、コーヒーを飲みながら思い思いのケーキを楽しむことができたのです。



ラコリーナ母屋 もっと季節が進めば緑の屋根になるところ

ラコリーナを出発してからは、琵琶湖畔沿いの道を進み、運悪く休業日のシャーレ水が浜を横目にして休暇村近江八幡に到着。

休暇村の夕食は近江牛尽くしのご馳走膳で一同大満足の宴でした。



近江牛だらけのご馳走膳

夕食後の団欒は恒例の茶会を開催、一年ぶりの再会を愉しみ、2時間ほどしてお開きとなりました。

翌日18日（金）は朝食後、八幡山近くの日牟禮八幡宮を見学、



日牟禮神社

八幡山ロープウェイで八幡山からの眺望を愉しみ、降りては手打ちそば処 日牟禮庵のそばをこれまた楽しんだ後、JR近江八幡駅にて13:00頃 解散。

今回もまた北陸支部の開催ということでは向幸子さんのご主人向沖継さんの企画立案、実施で大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

20期同期会

20期 松下和隆

●開催日 2025年10月24日(金)～25日(土)

●開催地 能登

●日 程

【10/24】金沢駅(集合) → 輪島市南志見(なじみ)地区(昼食) → 輪島市黒島天領区(見学) → いこいの村能登半島(宿泊、懇親会)

【10/25】いこいの村能登半島(出発) → 金沢城址公園(散策) → 金沢大学(角間キャンパス部室) → 上荒屋寿司龍(昼食) → 金沢駅(解散)

●参加者(8名)

谷井(窪田)陽呂子、杉口安弘、高田泰夫、久富象二、広瀬隆、深田進、藤原栄男、松下和隆

●集合写真(いこいの村能登半島、2025.10/24撮影)



(左から) 松下、広瀬、高田、久富、谷井(窪田)、藤原、杉口、深田

卒業してから半世紀。20期の同期会は、ここ「いこいの村能登半島」にて2回目の開催とあいなった。ここに至るには、古希を目前にして要職を辞した久富氏(当時の主将)の奮起が大きい。また、今も三百名山をガンガン登っている深田氏のパワーサポートもまた大である。彼等二人は多忙な折も、昨年1月に発生した能登半島地震の復興ボランティアに従事した経緯もあり、ささやかなカンパとの思いも込め、この度の同期会は「能登」で開催することとした。

20期の部員数は20名。そのうち8名が集まった。半世紀の月日を経て集まった面々はみんなもうすっかり…なのであるが、中身はまったく昔のまんま。あつという間に打ち解けた。宿での夜は、かつてのテントの中と変わらない。とにかく笑い、ダラ話に花が咲く。「こんなに笑ったのは、わたし何年ぶりかしら」「次回は関東でやろうぜ」などなど…

宴は深夜にまで及び、みんなの心は青春時代へと戻っていく。



地震の被災跡(輪島市河井町 2025.10/24撮影)

一日目は、今も復興工事が絶え間なく続く「のと里山海道」を車で走り輪島へと向かった。快適なドライブとはまだいかない。道は波打ち、他県ナンバーのダンプもひっきりなしに走る。車線変更も何度か余儀なくさせられた。道の完全復旧はまだまだ先という感じだ。

輪島では地震の爪痕が未だ痛々しく残っている(写真)。復興にはまだかなりの時間を要するだろう。ただ地元有志による復興プロジェクト(奥能登元気プロジェクト)なども徐々に立ち上がっており、南志見地区での昼食会でリーダーの奥田さんからそのお話が聞けたのは大変良い体験だった。



金沢市寿司龍にて(左から) 松下、藤原、広瀬、黒崎、久富、

深田、高田、谷井(窪田)、杉口、ご主人(2025.10/25撮影)

二日目は、金沢に戻り金沢城址公園を観光(というより旧部室の「発掘調査」だった)。その後、角間キャンパスに移動しワンゲル部室にて黒崎氏と合流。現役は残念ながら不在だったが、旧PW記録などのお宝に巡り合え、皆で歓喜した。最後は寿司ランチで親睦(写真)。次回はもっと多くの仲間と会いたいものだね…

26期の畠山です。

化学会社で半導体材料の研究開発を仕事としています。半導体の高性能化によってデジタル社会が普及し、近年の最先端の半導体は AI(Artificial Intelligence)に使われて、国家戦略物質としてみなされるようになってきました。米国での開発拠点設立のため、転勤で 2024 年と 2025 年に米国オレゴン州のポートランド市に住んでおりました。出張では何十回も訪れた勝手知った町ですが、VISA を取得し納税してこの市民になって住むのとは大きな違いで、還暦過ぎてこれを経験するとは思いもよりませんでした。2024 年は大統領選挙フェスティバルでトランプかハリスのプラカードが各家々に張り出され、ホームレスが増え、拳銃の発砲が日常茶飯事で、分断と混乱を感じる年でした。日本で物価高が政治議論の中心になっていますが。米国の物価は日本の 3 倍でこの点ではとても住みにくい国です。一方、人種のるっぽで発想の豊かさや高度な能力の人が多く個人主義で、日本にありがちな同調的で閉鎖的なところが無く、刺激が多いことは確かです。ポートランド市は人口 70 万人ぐらいの中規模の都市で住みやすく、日本庭園やウィラメット川沿いの桜並木が日本を感じさせます。日本人の居住者は少なく、かえってそれが良かったです。以下は週末の活動についてのお便りです。

ここは自転車フレンドリーな街で、歩行者、自転車、自動車の通路がきちんと分かれています。日本に住んでいた時から、無雪期は自宅から自転車で登山口まで行き、そこからトレイルランニングで頂上を往復することをやっていたので、ロードバイクは盟友です。有名な観光地のマルトノマ滝へのクラシカルハイウェイ、ウィラメット川中流のワイナリー巡り、どこまでも続く農場、可愛らしいアルパカや馬の放牧風景を眺めながら 80 から 100 マイルの日帰りツアーナーを楽しんでいました。それにしても、オレゴンのピノノアールは絶品です。乾燥して冷涼な気候が合っているのでしょうか。

米国西海岸のカスケード山脈は全てが火山の独立峰で、殆どが浸食による尖がった山容です。日本の本州と四国を合わせた面積のオレゴン州にはマウントフッド(3429m)、マウントジェファーソン(3199m)、スリーフィンガードジャック、マウントワシントン、シスター 3 山、ブローケントップ、ダイヤモンドピーク、マウントティエールセン等、多くの山が点在しています。その中でもマウントフッドはポートランドから眺められる夏でも白い三角錐のオレゴンを象徴する美しい山です。マウントフッドに登りたい。どのように登るか、マウンテンショップで購入したガイドブックを見てみると、ポートランドから望む西側はサンディグレシャーの上に傾斜 60 度のヘッドウォールが聳えています。ここの氷壁をダブルアップスで登る YouTube を見ると自分でも登れそうな錯覚がして楽しい。頂上南側のスキー場のティンバーラインロッジからだと斜度が緩く 40 度を少し超える程度なので、一般的な登山者はここを登るようです。



ロッジは100年前に建てられたリゾートホテルでスキー場の中にあります。スキー場は1年中営業しており雪が溶けないので、日本の夏山のような登山道というものは無く、アイスアックスとクランポンが必須です。頂上に行くには地元のガイドの許可が必要で、登頂者の人数制限をしているようです。ロッジからだと近いので、もっと下から登るルートは無いかと探してみると、600m程下にそり遊びのためのスノーパークがあり、ここから登ることにしました。2月と3月の晴れた日の2度、スノーパークの駐車場からホワイトリバーの中を登っていきます。気温が低いにも関わらず、時々落石がうなりを上げて落ちてきます。日本の山だとこれだけ気温が低いと落石は頻繁には起こらないのですが。登頂許可を取っていないので、頂上手前のクレイターロック近くまで。振り返ると遙か彼方にマウントジェファーソン。こちらも尖がっていて格好がいい。ロッジからのスキー場の上を登るルートは賑わっていますがこちらから登る人は誰もいなく、静かで雄大なホワイトリバーの滑降を満喫しました。

オレゴン唯一の国立公園のクレイターレイク。ポートランドからは片道300マイル、往復900kmのロングドライブです。5月に日帰りで2回行きました。米国の湖で最も水深があり青色以外は吸収されるので、見事なダークブルーです。これほど群青色の丸い湖を私は見たことがありません。外輪山の標高が2300m程で残雪が豊富。外輪山を周遊する道路が6月にならないと車の通行できないので、スキーを背負って車道を歩き、ウイザード島を見下ろす展望台に登りました。眼下に

奇跡の色の湖を眺めながらの滑降はとても印象に残るものでした。妻が7月にポートランドに遊びに来てくれたので、更にもう一回ここを訪れたのでした。

今年の夏はアラスカ、アンカレッジに飛んでデナリ国立公園のドライブやロードバイクを楽しもうと思っていましたが、日本での開発加速のため帰国命令が出てしまいました。来年冬にはマウントフッド西側のグレシャー滑降も狙っていて、ここにずっと住んでいたい気持ちもありましたが、日本に帰って仕事で挑戦したいこともあり、複雑でした。さらばオレゴン、ポートランド、思い出を有難う！



マルトノマ滝



ホワイトリバーにて



クレイターレイクにて

令和10年（2028年：次回総会開催年）までの

OB会会費及び寄付金の納入についてのお願い

会計担当 23期 小久保光将

日頃よりKUWVOB会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では5年ごとの周年行事をはじめ、現役活動への支援、会報「やまと」の発行、小屋作業、現役との懇親会等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くのOB・OGの皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

1. 会費

年2,000円。ただし、事務負担軽減のため、5年間の一括払い（=10,000円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

2. 現役活動支援寄付金

・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は1口2,000円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。

・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

3. 納入方法

- ・今回は未納会員の方にゆうちょ銀行の払込取扱票を同封しています。この取扱票に金額、住所、氏名、ご自分の「期」を記入してご利用ください（手数料は各自でご負担願います）。
- ・銀行振込の場合は次の口座にお振り込みください。

北國銀行本店営業部 普通預金No.223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

OB会一般会計（単年度）報告

（円）

収入の部		支出の部	
高目	金額	項目	金額
前期(06.8.31)繰越金	738,724	OB会報（やまと）印刷費	187,000
OB会費納入	754,000	現役活動支援金	100,000
預金利息	179	小屋作業関連費用	89,643
その他収入	0	OB役員と現役との懇親会補助	132,900
		事務費	3,762
		支払手数料	1,510
		その他支出	0
		次期(07.9.1～)繰越金	978,088
計	1,492,903	計	1,492,903

編集後記

近年では70歳を過ぎても何らかの仕事に従事されるなど、高齢化社会に適応して人生を有意義に過ごされる方が増加しております。OB会においても何らか社会とのつながりをもち忙しくされながらも活動に協力してくださる皆様も増加しています。各支部では新しい参加者を大いに歓迎していますので少し余裕ができた皆様におかれではぜひ記事に登場された同期などの知り合いに連絡され気軽にイベントに加わってくださいと嬉しい限りです。

近畿支部においては長年代表・事務局を勤められた5期金岩さん、11期の加藤さんが10月に任を交替されました。これまでのご尽力に感謝を申し上げます。後任の15期三宅さん、16期井上さんこれからよろしくお願ひいたします。

また、今年は夏合宿が久しぶりに泊付きで実施されるなど現役の活動が徐々に通常に戻りつつあります。このため、活動の拡大に伴って費用的な負担も増加しているようですがOB会の支援も有効に活用してもらえるよう連携していきたいと思います。バスなどの公共交通機関はかつてのようには存在せずアプローチが難しくなっていますのでこうした際にOB側から支援することも具体的な対応の一つになるとを考えます。安全な活動を前提にしつつ、ぜひ積極的に活動頂きたく願っております。今後とも可能な限り現役活動の支援を継続します。

なお、犀奥ベルクハイムの今後につきましても現状と今後の見通しの両面から考え現実的な対応を取る段階にあります。現地の環境変化、関与できるOBの高齢化と現役活動の変化で犀奥での継続的活動が困難になっていますので、できるだけ多くの会員が納得できる方法で対応することが望ましいと考えます。

お陰様で「やまと」も第40号の節目を迎え、先輩方から引き継がれた伝統の重みを感じております。

形は変わりましたが、これからも皆様のご活躍を伝え、会員間の連携の一助となれるよう努めます。

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会会報誌「やまと」vol. 40

発行日 2025年12月

発行者 黒崎敏男 (OB会会長・22期)

e-mail (PC) ichie@bronze.ocn.ne.jp

OB会事務局 〒920-1154 金沢市太陽が丘3-133 仲村正一 (24期)

e-mail (PC) jobvisionmap@icloud.com

OB会ホームページ <http://www.kuwv.net> 管理人／奥名 正啓 (15期)

OB会費払込口座 (口座名義: 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会)

郵便局 (振替) 00780-3-14120

ゆうちょ銀行 (送金) ○七九支店 当座預金 No. 0014120

北國銀行 本店 普通預金 No. 223703

《事務局から》

◇住所が変わられた方は、お手数でもOB会会長黒崎 (ichie@bronze.ocn.ne.jp) 又は事務局仲村 (jobvisionmap@icloud.com) までメール等でお知らせいただいけると幸いです。

配送や会費納入についてのご確認も遠慮なくお問い合わせください。

◇OB会のホームページ (上記) をご覧ください。有志OB・OGの活動がリアルタイムでわかります。

原稿を投稿してみたいと思われる方はいつでも原稿を受け付けていますのでメールでOB会長まで送っていただければ幸いです。

◇会員の消息について把握されましたら会長までご連絡くださいと助かります。今回は、令和6年12月に12期 小西外士郎様、令和7年5月に3期小林宣泰様、9月に18期の椿川利弘様、10月に9期清水一様、11月に3期西尾皓史様の訃報がございました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。